

堆積して水田を営んでいたのかも知れない。

溝-27・30 (図7・25・31-1・4・6・13・15・25・26・27 写真28・29・32 表4-2)

これらの遺構は開析谷西側に台状部に沿って掘られた溝である。古墳時代、奈良時代の遺物と共に中世の瓦質鉢、碗、丸瓦、平瓦が出土している。これらの遺物のうち中世の遺物は本来の溝27・30から出土したのではなくて、上層を覆う包含層の中に含まれていた遺物を取り込んでしまったと考えられる。2つの溝の埋土は黒褐色から灰色系を示す。後世に新たな溝が掘られて2つの溝が重なっている状況は認められず、中世の遺構である溝22の埋土と異なった色調である事や溝の底から礎が出土している事から、これらの溝を中世とするにはどうも疑問が多い。

落込-7A (図7・32-3・4・7 表5)

開析谷底部の台状部に沿った位置にある。幅広く浅い遺構である。この遺構内から中世の東播系の土器片や瓦片、瓦器碗、井筒など中世後半期の遺物が出土している。この他奈良時代の須恵器や土師器などが出土している。古墳時代では須恵器が出土している。またサヌカイト剥片も出土している。中世後半期に掘り下げられて窪んでいたと考えられる。

I) 安土桃山時代

この頃に開析谷の調査区外に堤を築いて更池を築造している。この時の池の最下層の堆積層がⅢ層である。堆積層Ⅲ層がこの時期かと推測される。またこのⅢ層を切って井戸Cが掘られている。この井戸は底部まで調査できていないので、今一つ明らかではない。また台状部の井戸Aは出土する遺物からこの頃と推測される。堆積層Ⅲ層を掘り込んだ井戸があるので、更池も一時使用されていない時期がありそうだ。

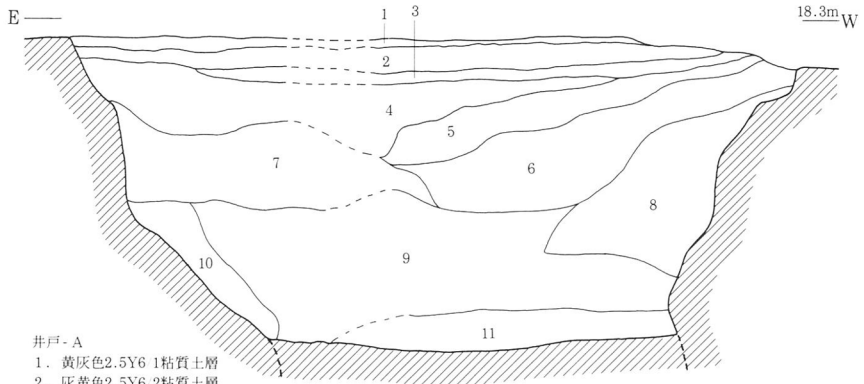
井戸-A (図7・30 写真38 表7)

台状部中央にあり、掘立柱建物11と重複している。上部径5m、深さは約2mの素掘りの井戸である。中世の瓦質大甕破片や平瓦、丸瓦が出土している。

井戸-C (図7・30 表7)

この遺構は台状部が調査区南端に接するすぐ東側近くに掘られた素掘りの井戸である。調査区の外側壁面に接して存在しているので、底面まで掘り下げた調査はしていない。この井戸はこの開析谷のⅢ層が埋没した段階で掘られて、井戸Cの埋土上層にⅡ層が堆積して覆っている。この井戸の開削時期は溜池が築造された後、一時期溜池の空白期があり、この時期に掘られたらしい。

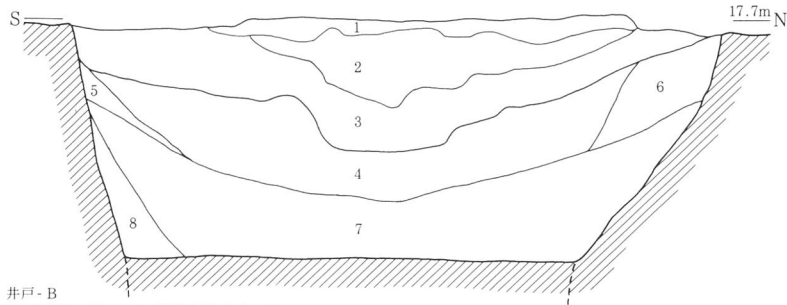
溜池内堆積層Ⅱ層から瓦質の甕や口縁部が垂直近くに立ち上がった羽釜の破片が出土した事から近世前期と思われるが、この時期以前の中世末か近世初頭の非常に限られた時期に使用された井戸と考えられる。井戸は井戸枠が残っておらず、元々井戸枠を持たない構造であったのか、あるいは井戸枠を廃絶時に掘り出して撤去したかは分からない。井戸掘方はすり鉢状に内側へ傾斜した構造を示している。



井戸-A

1. 黄灰色2.5Y6 1粘質土層
2. 灰黄色2.5Y6 2粘質土層
3. 黄灰色2.5Y6 1粘質土層
4. 黄灰色2.5Y5 1粘質土層に黒褐色2.5Y3 2斑点あり
5. 黄灰色7.5Y5 1粘質土層と明黄褐色10YR7 6粘質土層の混在
6. オリーブ黒色5Y3 1粘土. 灰白色5Y7 2粘土. 緑灰色5G6 1粘土ブロック混在
7. 灰色7.5Y5 1粘土層(灰白色5Y8 2粘土. 灰白色5Y7 1粘質土ブロック含む)
8. 明黄褐色10YR6 6中砂層
9. オリーブ黒色5Y3 1粘土. 灰白色5Y7 2粘土. 緑灰色5G6 1粘土ブロック混在
10. 淡黄色5Y8 3粘土とにぶい黄橙色10YR7 3粘質土ブロック混在
11. 緑灰色10G6 1粗砂を含む砂質土層

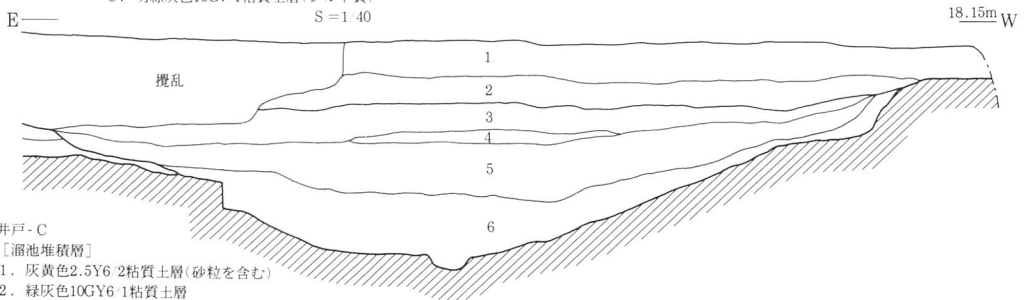
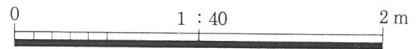
S = 1 40



井戸-B

1. 灰白色5Y8 1~8 2粘質土層(粘土に近い)
2. 青灰色5BG5 1粘質土層(小~中礫若干含む)
3. 暗青灰5BG4 1粘質土層(小~中礫若干含む)
4. 緑灰色7.5GY6 1~10GY6 1粘質土層(中~大礫多く含む)
5. 褐色10YR4 1粘質土層
6. 褐色10YR6 1粘質土層
7. 緑灰色7.5GY6 1粘質土層(砂, 小~中礫多く含む)
8. 明緑灰色10G7 1粘質土層(シルト質)

S = 1 40



井戸-C

[溜池堆積層]

1. 黄灰色2.5Y6 2粘質土層(砂粒を含む)
2. 緑灰色10GY6 1粘質土層

[井戸堆積層]

3. 灰白色7.5Y7 2粘質土層
4. 灰白色7.5Y7 2粘質土層
5. 緑灰色10GY6 1粘質土層
6. 緑灰色10GY5 1礫まじり粘土層

S = 1/60

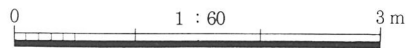


図30 井戸断面図 1 : 40 1 : 60



写真38 井戸-A (南から)

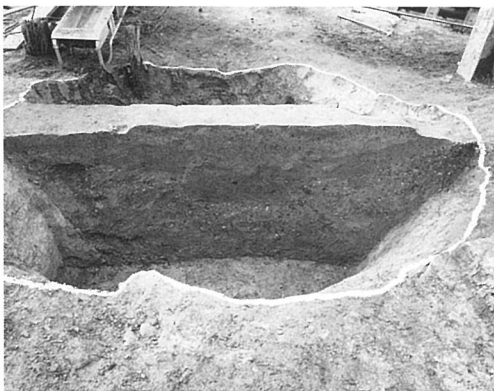


写真39 井戸-B (東から)

広くて浅いものである。落込7Bは落込7Aとは全く異なる遺構である。

井戸-B (図7・30・34-5 写真39 表7)

台状部が西側の下って傾斜している途中で、溝27より東側に位置している。井戸は落込12と重複して、後出である。上部径は4m、深さも4m以上を測る、素掘りの深い井戸である。近世陶器などの遺物が出土した。

今回のこの調査で明らかとなった井戸はすべて中世か近世に掘られたもので、農業用の灌漑用水を確保するために掘られたらしい。古墳時代後期の集落で使用した井戸は発見できておらず、調査区南側の未調査区にあるらしい。

K) 近代

溜池の堆積層上の水田や開析谷上層の水田が営まれ続けている。更池の規模が縮小した状態で現代の中央環状線建設が始まるまで、この頃形作られた景観はそのまま保持されて継続していたようである。

J) 江戸時代

更池が再び使用され始め、その後に堆積層が厚く溜まり、更池の南側の調査区付近では溜池として機能しなくなりつつある。この時の堆積層がII層である。この堆積層から瓦質の甕、染付け等が出土している。そして溜池として機能しなくなった調査区付近は溜池を新しく水田に造成している。開析谷の範囲の水田化はこの頃と推測される。しかし台状部の耕作土層は後世の削平が著しく今一つ分かり難いが、この頃までにはすでに水田化していたようである。

この時期の遺構としては台状部に井戸Bがある。農業用灌漑用水を得るための井戸と考えられる。

開析谷内の第2面、第1面がこの頃に相当するが、畝溝や排水溝、暗渠等も殆ど見られない。後の時代の耕作の為に攪乱されたと考えられる。

落込-7B (図7 表5)

台状部西側に広がり、井戸Cを被っている。

3. 遺物

新金岡更池遺跡の遺物は、弥生時代と思われる資料が最も古い。そして遺構においては古墳時代後期が最も古い。古墳時代後期以降の各遺構から出土した遺物について述べ、次に開析谷の各層位から出土した遺物について述べてゆきたい。そして最後に両者を取りまとめて当遺跡の変遷を述べてゆく。

A) 古墳時代後期

溝内出土遺物 (図31 写真42 表4-1・4-2・9-1)

溝2・5・8・12・15・18・20・24・25・27・29・30・31がこの時代である。これらの遺構から出土した遺物は、杯蓋では口縁部内面に稜を作るものが多く残っているにも係わらず、体部外面の稜線や沈線はすでに大半が消失している。杯身では受部が突出した形態を示している。中には奈良時代の杯身の高台を持つものも見られる。高杯の脚端部径は大きく約20cmを測り、杯部径より大きな脚端部を示した二段の三方透かしの高杯が多く見られるのが当遺跡の特徴である。そして脚端部は端面を作っている。一方短脚の高杯も少量出土している。土坑内から出土している古墳時代後期の須恵器高杯脚部に、短脚で内側に内湾している形態のものがあるが、この中にも脚端部径が大きいものがある。短脚高杯の脚部にも脚端部径の大小の違いがあるようだ。甕の口縁部端部形態も丸みを帯びているものや、水平に近い端面を作るものなど様々な形態が見られる。そして甕も出土している。口縁部を欠損しているので、頸部の括れの程度や口縁部付近の装飾が分からない。しかし体部外面に沈線や斜線や刺交紋を施さない事から口縁部外面の装飾もあまり施されていないと推測される。土師器高杯も杯底部から口縁部が大きく外側に伸びる形態で脚部も細い形態である。たこ壺も出土している。当遺跡のたこ壺は開口部に紐を通す穴をあける形態ではなく、開口部と反対側に紐を通して括り付ける、あたかも銅鐸に似た形態である。この形態のたこ壺が須恵質と土師質の双方に見られる。

以下の溝は中世や奈良時代の遺物を共に出土している。しかしこの通り理解してよいのか疑問がある。埋土の色調や溝底部の遺物の出土状況から考察して時期を判断したい。

溝-27 (図31-1・4・6・13・15・25・27 写真42-1・3・7・9 表4-2・9-1)

中世では瓦質の椀、鉢、丸瓦、平瓦が出土している。瓦類は凸面が縄目叩きである。奈良時代では須恵器杯身が出土している。古墳時代では須恵器杯身、杯蓋、高杯、壺、甕、大甕、土師器たこ壺、甕などが出土している。

須恵器高杯は大型の脚部で中央部付近、下部にそれぞれ2条の沈線を入れている。脚端部は厚く端面を作っている。この高杯は高さがあり、脚端部径も大きなものが多い。長脚二段の中でも長い脚を持ち、脚端部径も大きく目立つ遺物と推測する。杯身は口径が7cmを測り、最小口径を示す頃のものである。

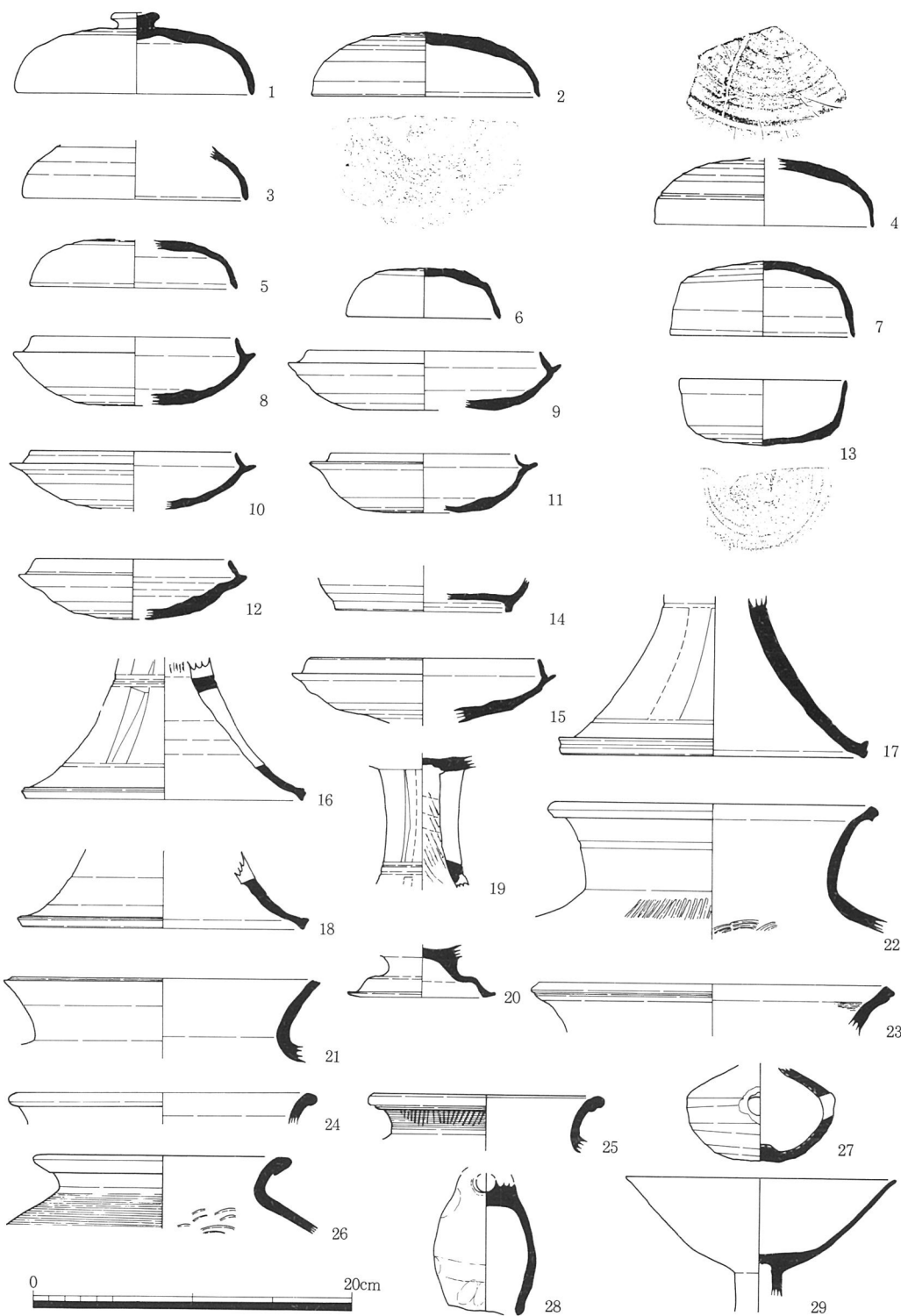


图31 溝出土遺物 1 : 4

溝-30 (図31-26 表4-2・9-1)

中世の瓦器碗が出土している。奈良時代末平安時代初頭の黒色土器の破片が出土している。古墳時代では須恵器杯類、高杯、甕などが出土している。また土師器の破片が出土している。

西側開析谷にあるこれらの溝27・30は埋土が褐灰色や黒褐色、明黄褐色、灰黄褐色などの暗褐色系の色調を示している。一方東側開析谷にある溝22は埋土が灰白色粘質土層や灰黄色粘質土層などであり、中世遺物を多く出土している落込7Aの埋土も浅黄色細砂層で明るい色調を示している。両者を比較すると明らかに色調が異なっている。この事と遺物の出土状況等を考えると、前者は恐らく古墳時代後期の遺構であり、後者は室町時代頃の遺構ではないかと推測したい。前者の遺構から中世の遺物が出土したのは溝の表面に包含層が被っていて、この中に奈良時代と中世の遺物が含まれていたらしい。そして溝掘削時に包含層の遺物を取り込んでしまった可能性を考えたい。

落込内出土遺物 (図32 表5・9-1)

落込1・8・9・12から古墳時代後期の遺物が出土している。これらの遺構内から須恵器の杯身では高杯と同様な杯部が出土している。少し薄手で、シャープな作りである。口径も通常の杯身より大型であるが、器高は低い独特な形状である。また器台型土器の口縁部や大甕の口縁部が含まれている。掘方や溝、落込、そして各層位から出土した須恵器を見ると、通常の集落遺跡から出土している須恵器群とは少し異なった様相を示しているようである。それは器種構成として高杯が非常に多く存在している事と器台型土器や長頸壺、甕などが数多く見られる。そして杯身、

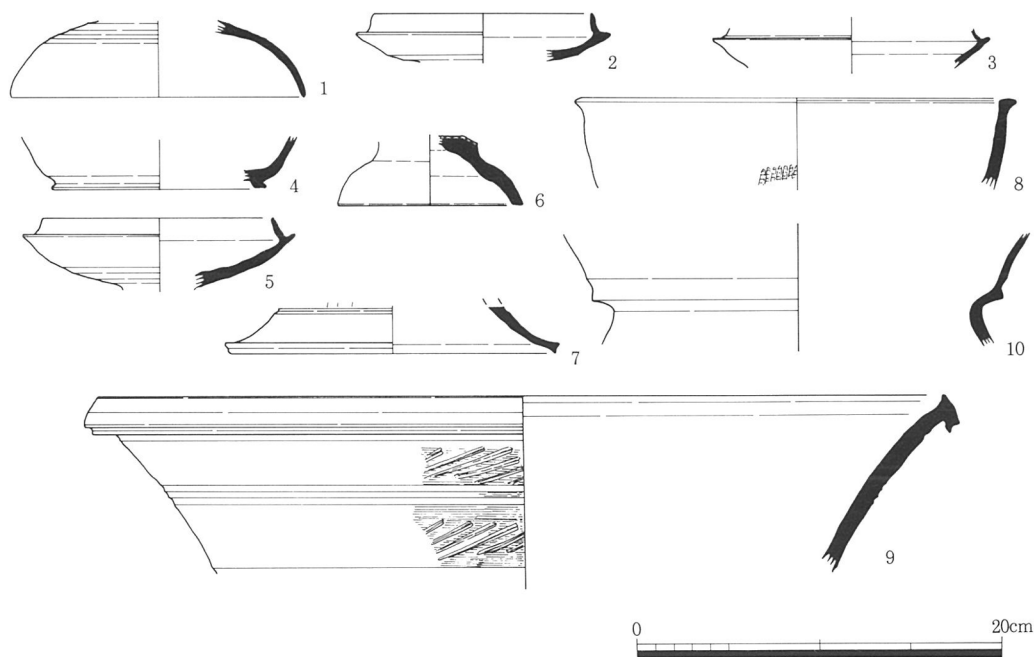


図32 落込出土遺物 1 : 4

杯蓋類が最も多い。この出土傾向は横穴式石室から出土する埋葬時の副葬品の構成に非常に似ている。この当遺跡の遺物の構成状況から推測すると、古墳の石室内の副葬品は特殊な品物を特別に誂えて副葬しているのではなくて、古墳時代の豪族が日常生活に用いていた品物を副葬していたにすぎない事が推測されよう。当時の日常生活の反映である可能性が高い。すなわち当遺跡では杯身、高杯等の杯類の多さからすると須恵器での饗膳を主体とした日常生活がこの調査地でも繰り広げられていたようである。そして一方では農民階層はどうであったのかと言えば、住居も小型であるし、出土遺物も高杯や器台類や壺、甕類が減少しているのではないか。通常の集落と豪族の屋敷地との違いは遺物の構成にも現れている。やはりその階層差がどうも存在していたようである。古墳時代前期の土師器の二重口縁甕の破片が出土している。この土器はV層、VI層から布留式土器が出土しているのと同様に、この台状部の近隣の地に古墳時代前期頃の集落が営まれていた事を物語っている。

土坑出土遺物（図34 写真40 表6-1・6-2・9-2）

土坑7・26・32・33・45・58・61から古墳時代後期の遺物が出土している。これらの遺物は須恵器杯身、杯蓋、器台形土器の杯部とともにサヌカイト製石鏃（図34-4）と剝片が出土している。

ピット内出土遺物（図33 写真43 表8-1～7・9-1）

大半のピットがこの時期に相当する。掘方から出土する遺物の大半は陶邑編年II-3段階頃である。須恵器杯身は立ち上がり部先端の稜が殆ど消失した段階で、杯蓋では天井部と口縁部の境目の沈線も甘く、少し窪んでいるだけの形態である。しかし口縁部内面には稜線が残っているものもある。高杯は脚部のみであるが、長脚二段で方形透かしが入る。透かし穴は二方向と三方向がある。高杯脚端部は端面を作る形態である。土師器高杯脚柱部は古墳時代後期にも係わらず断面が多角形の形状を示している。しかし稜はやや丸みを帯びている。土師器杯は口縁部内側に沈線を入れていないが、奈良時代に入る時期の形態を示している。

今回の調査では掘方断面を重要視した調査を行ったので、柱穴部分の出土遺物と掘方部分の出土遺物を分離する事ができなかった。このため古墳時代後期の柱掘方内から新しい時期の遺物が出土した形になって、他の状況からどうも時期的に合わない遺構も少し見られる。大半の柱掘方からは古墳時代後期の遺物が出土している。台状部西側の柱穴径が小さな掘立柱建物13付近では、ピット内から口縁部がS字状に湾曲して、口縁端部に沈線を入れた土師器が見られる。また黒色土器が数点出土しており、椀の高台径が大きい形態を示している。おおよそ奈良時代後半期から

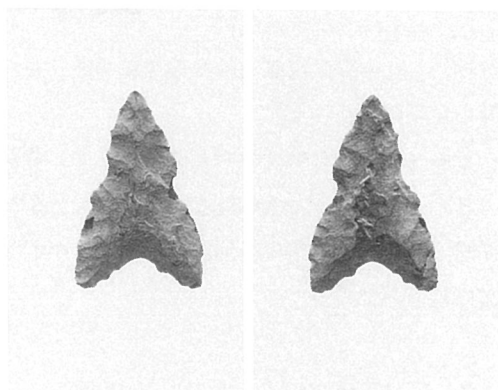


写真40 土坑-7出土石鏃

9世紀初頭頃のものかと思われる。

柱掘方内から各種の土器片が出土している。出土状態は小さな破片で、方向も様々で、地鎮を

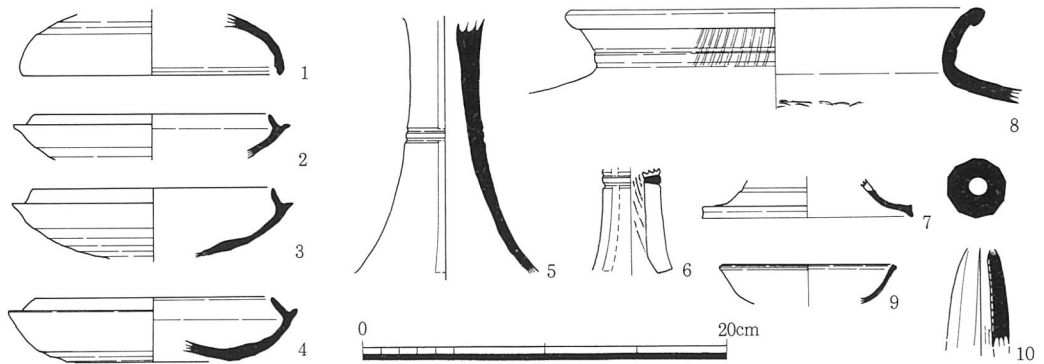


図33 ピット出土遺物 1 : 4

目的とした土器の安置と祈りの意識は感じられない。また地鎮の為の完全な土器が入れられた遺構も見られなかった。

ピット-34から中世の平瓦が出土しているが、混入と考えたい。

ピット-175・176から時期不明の黒色土器らしいものが出土している。掘立柱建物3であるが、柱掘方は他の古墳時代後期と形態、深さが似ており、奈良時代末～平安時代初頭の遺構とは考えにくいものである。

B) 奈良時代

溝-4 (図31-14・20 表4-1・9-1)

奈良時代の須恵器杯身が出土している。また古墳時代の須恵器杯蓋、高杯、大甕、土師器の杯、皿が出土している。

落込-6 (図32-2・5・6・8・9 表5・9-1)

奈良時代の須恵器杯蓋とともに古墳時代の須恵器杯身、高杯、壺、甕、大甕や土師器の甕が出土している。

土坑-14 (表6-1)

奈良時代では須恵器杯身とともに時期が分からない甕が出土している。一方、弥生時代と思われる甕も出土している。

土坑-53 (表6-2)

奈良時代の土師器の甕口縁部が出土している。口縁部は外側に外反し、端部は水平に作られている。

ピット-261・262・279・302・305・316から奈良時代の須恵器杯身、杯蓋、土師器杯、黒色土器碗などが出土している。

C) 平安時代

ピット-175・176・262・302・305・316から黒色土器が出土している。この内ピット-175・176の柱掘方は大型で、残りのピットの柱掘方が小型であるのと異なっている。この為この2つの遺構は柱穴部分が腐食して窪んだ後に入った可能性が考えられる。黒色土器は小片で全体形状がわかるものは無く詳しい時期は分からない。奈良時代末から平安時代初頭と推測している。

D) 鎌倉時代

この時代に伴う遺構は無さそうである。遺物も見られない。

E) 室町時代

溝-22 (表4-1)

中世では瓦器碗や瓦片で凸面は離れ砂を使用して、凹面には糸切りで布目圧痕のあるもの、古墳時代の杯身、高杯、甕、大甕が出土している。

落込-7A (図32-3・4・7 表5・9-1)

台状部に沿っている遺構である。この中から中世では東播系のこね鉢、縄目叩きの瓦片、平瓦、瓦器碗、井筒など中世でも後半期の遺物が出土している。この他に奈良時代の須恵器杯身、杯蓋

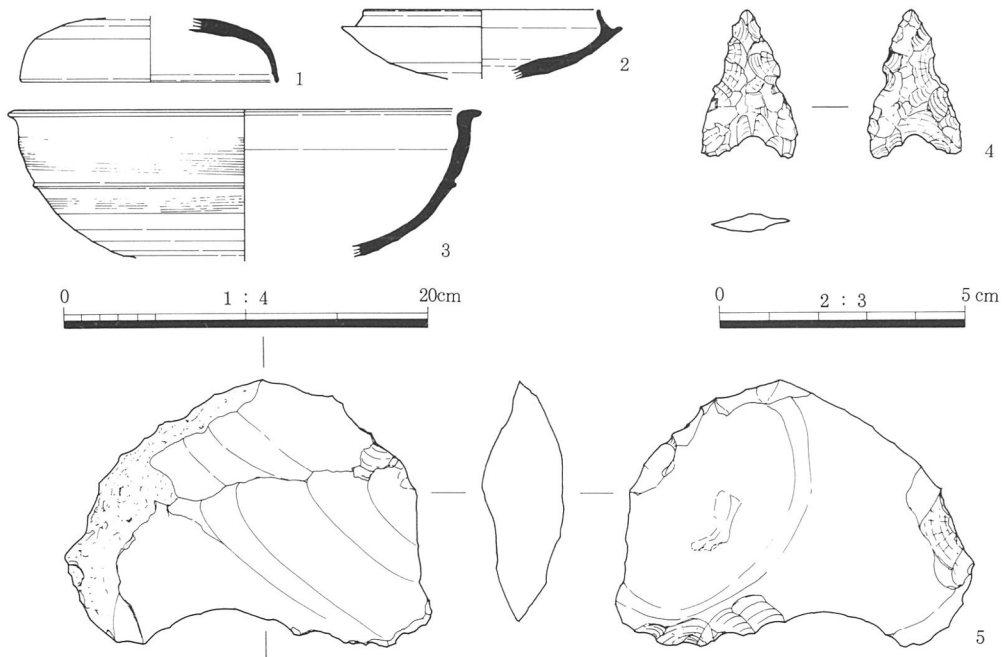


図34 土坑・井戸出土遺物 1 : 4 2 : 3

で口縁部があまり屈曲していない資料、土師器で甕の把手部分などが出土している。古墳時代では須恵器高杯、壺、甕、大甕で口縁部外面にヘラで斜線紋を施したもの、杯身の立ち上がり部内面に段を持たないものや、口縁部内面に段を持たない杯蓋が出土している。またサヌカイト剥片が出土している。

F) 安土桃山時代

この時代の遺構は無いが、東側開析谷堆積層のⅢ、Ⅳ層が該当する。そして井戸CがⅢ層を切り込んでこの時期に掘られている。また遺物の面から井戸Aがこの時期に該当するようである。

井戸-A (表7)

瓦質大甕破片や平瓦、丸瓦が出土している。これらの瓦は凸面縄目叩きで離れ砂使用、或いは縄目叩きでスリ消しを行っている。一方凹面は布目でスリ消したもの、布目のままのものがある。古墳時代では須恵器杯身、壺や土師器の破片が出土している。

G) 江戸時代

開析谷Ⅰ、Ⅱ層が該当している。そしてこの時期の遺構としては井戸Bが相当する。

井戸-B (図34-5 表7・表9-2)

近世の遺物では近世陶器の碗や平瓦、丸瓦、そして土師器の破片とともに牛の骨が出土している。中世では土師器の破片とともに平瓦で凸面縄目叩き、離れ砂を使用しているものや凹面に布目圧痕が残るものがある。古墳時代の須恵器の杯身、杯蓋、高杯脚部、壺、甕とともに土師器の甕やその他の破片が出土している。時期の分からない石器の未製品らしいものもある。

H) 開析谷

開析谷の堆積層から、西側や隣接する様々な遺構から出土したと思われる遺物が多量に含まれている。これらの遺物を概観するだけで、削られて分からなくなった遺構や隣接してどのような遺構があったのかを推測する手掛かりとなると思われるので、開析谷の出土遺物の概要を以下述べていたいと思う。

Ⅰ層は溜池最上層である。この層から唐津焼、青磁、伊万里焼、天目茶碗が出土している。天目茶碗は褐釉である。また須恵器の器台形土器の直径約17cmほどの脚部が出土している。脚部の上部から順に2条沈線、2条波状紋、2条沈線が施されている。脚端部は下方へ内側に湾曲している。筒型器台の破片とすると当遺跡から筒型と鉢型の2種類の器台形土器が出土している事になる。この堆積層からは江戸前半期頃に納まる遺物まで出土しており、更池の南側の一部分を更池から水田へと開発されたのはこの頃と推測される。この為に更池は南側の水田化によって小型化している。そして堺東警察署や住宅地の建設頃まで残りの更池は残存していた。

Ⅱ層は溜池のⅠ層の下層に堆積している。この層から次の遺物が出土している。近世かと思わ

れる遺物では、離れ砂を少し使用した燻し瓦が出土している。瓦の破片総数は各時代を通じて相当数に達している。縄目叩きのものから縄目叩きで離れ砂を用いているもの、スリ消し瓦で少し離れ砂を用いているものなど、各時代を通じて瓦が使用されていて、廃棄されていた事を推測させるようである。そして軒丸瓦も各層を通じて4点出土している。1点のみ蓮華紋軒丸瓦で、残りは巴紋軒丸瓦である。奈良時代後半期には瓦を持つ建物が近くに存在していたようである。そしてこの建物はすぐには廃絶することなく、中世、近世に至るまで継続していたようである。

また近世陶器の底部や初期伊万里と思われる焼成の悪い胎土が褐色がかかった色調の染付けもある。また湊焼、唐津焼も出土している。中世では、口縁部が直立している瓦質羽釜でも終末期の16世紀頃の遺物が出土している。この他瓦質の甕や碗、鉢が出土している。そして須恵質こね鉢、土師質甕やすり鉢、白磁も出土している。古墳時代の出土遺物は須恵器の杯身、杯蓋、高杯、壺蓋、甕、大甕、たこ壺などがある。西側の古墳時代集落から廃棄された遺物と推測される。そして壺蓋は天井部に斜め放射状の刻み目の入ったものがある。土師器では鉢があり、古墳時代後期頃かと推測される製塩土器も見られる。この堆積層は溜池の中層で、近世前半頃の遺物まで出土している。

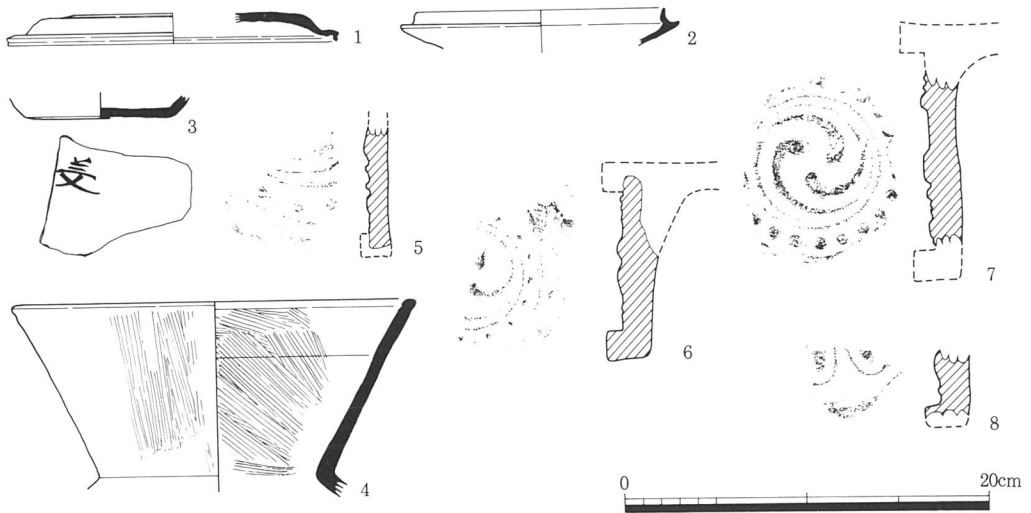


図35 包含層出土遺物(1) 1:4

III層はII層の下層にあり、近世では染付が出土している。中世では白磁、青磁も出土している。そして中世陶器の甕が出土している。瓦質羽釜で、口縁部が少し内側に傾斜している形態や、口縁部が垂直に立って、数段の凹線を作っているものがある。瓦質こね鉢がある。瓦器碗で、高台部分が三角形状のもの、瓦質甕で口縁部が外側に湾曲しながら外反して、先端を下方に摘み出しているものや土師質こね鉢で、口縁部が上方に傾斜した面を作り、先端は摘み上げているものがある。また土師器の碗、羽釜、甕が出土している。そして瓦類では平瓦、丸瓦、軒丸瓦が出

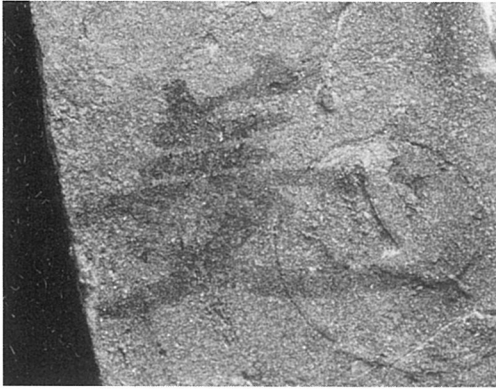


写真41 III層出土墨書土器

土している。これらは縄目叩きで成形して離れ砂を使用している。そして中にはすり消し瓦で離れ砂を使用しているものもある。

奈良時代では高台付の土師器杯がある。土師器鉢で口縁部がS字状に屈曲しつつ口縁端部を上方に摘み上げたものがある。須恵器では杯身、杯蓋が出土している。杯蓋は口縁部付近が平坦なもので、先端が下方に垂下しているものや口縁部先端付近がS字状に屈曲しているものもある。先端形状が垂直に垂下しているものや、外側に開きつつ先端を丸めているものなどいろいろ

種類がある。須恵器杯身では無高台でやや湾曲しつつ、上方に立ち上がっている杯身の形態や、高台を持つ杯身では高台部分からすぐに外上方に斜めに立上がっている杯身もある。高台部より少し外側に口縁部が立ち上がっているものや墨書土器も1点発見している(図35-3)。「姜」にも似た文字である。上部は「羊」に似ているが、中央の縦線は無い。下部は「文」の上部の点がない字に似ているように思われどう見ても「女」には見えない。須恵器の無高台の杯身か皿の底部外面に記入されている。この文字がこの奈良時代の集落の性格や名称を解く鍵であるが、今の所手掛かりはない。古墳時代の須恵器では、杯身、杯蓋、高杯、壺、甕、大甕、たこ壺が出土している。杯身で立ち上がり部と受け部との間がU字状の曲線で受けるように湾曲していて、立ち上がり部が受部より少し突出しているものも見られる。土師器では杯、高杯、甕、たこ壺が出土している。そしてサヌカイト剥片が出土している。

III層には一部近世に入るかと思われる資料もある。しかしこれらの資料が溜池内部での層位の混乱から混じったものだと推測すると、この層以下は中世後期頃の遺物が主体となる。この頃にこの溜池が築造されたのであろうか。更池の築造年代は15、16世紀頃かと考えられる。

IV層はIII層とVII層の間にある。堆積層は上部のI～III層とは異質で有機質の多い土壌である。出土した遺物は近世では湊焼のすり鉢で、口縁部が厚く上方に伸びているものがある。中世では中世陶器の壺、瓦質土器や土師器の破片や瓦器碗が出土している。そして平瓦や丸瓦で縄目叩きを施しているものも見られる。奈良時代では須恵器の杯や甕が出土している。古墳時代では須恵器の杯身、杯蓋、高杯、壺、甕、大甕、たこ壺が出土している。これらの中に生焼けの遺物がある。また土師器の杯、高杯、壺、たこ壺、布留式甕が出土している。また円筒埴輪口縁部が出土している。そして弥生式土器で茶灰色を示し砂粒質の生駒西麓産かと思われる甕破片が出土している。この層も開析谷底部の層であるが、一部に新しい近世かと思われる遺物が見られる。これらの資料は混入として考えると、この層が堆積したのはIII層と同様な時期が考えられるのではないだろうか。

V層は台状部の厚い包含層上部である。近世ではすり鉢が出土している。中世では土師器の小皿が出土している。飛鳥時代では須恵器の口径が最も小さくなった時期の杯身、杯蓋が出土している。そして古墳時代では須恵器の杯身、杯蓋、高杯、壺、台付き長頸壺、甕、大甕が出土している。また土師器の杯、鉢、甕、たこ壺などが出土している。この台状部包含層の形成時期は近世、中世の遺物が少し混じるが、後世の攪乱が多くあったのでこれらを混入として考えると、V層の下層に掘立柱建物13がある事から集落廃絶以降の平安時代頃と推測する事ができる。

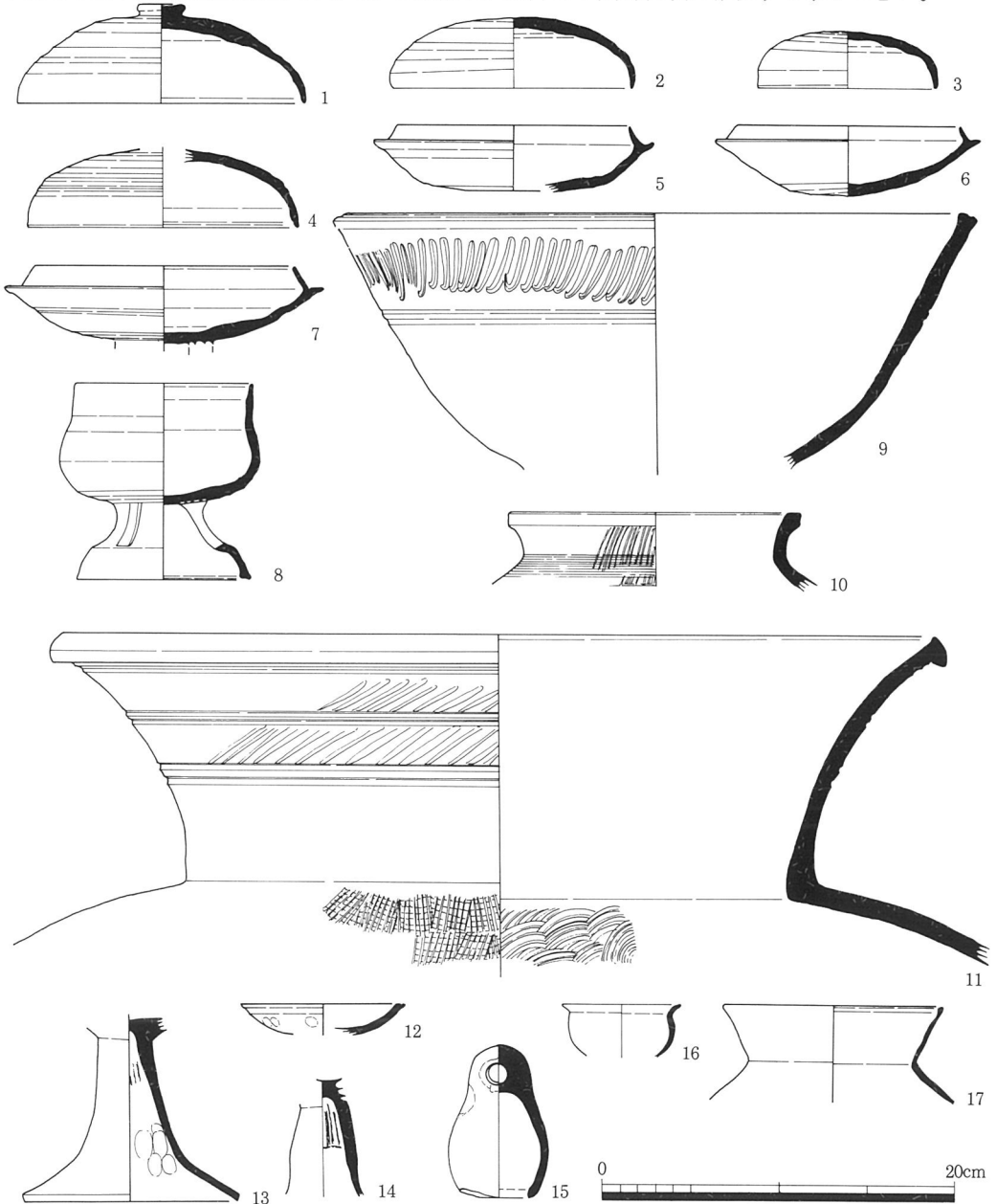


図36 包含層出土遺物（2） 1：4

Ⅵ層は台状部下層でこの下に古墳時代後期の集落の遺構面がある。この層は台状部東側に厚く堆積しているが、西側にはほとんど堆積していない。中世では白磁の皿や平瓦、そして瓦質の鉢や甕や軒丸瓦、平瓦とともに染付や中世陶器が出土している。奈良時代では土師器の杯が出土している。古墳時代では須恵器の杯身、杯蓋、無蓋高杯、有蓋高杯の杯部、ワイングラス状の高杯、器台形土器、壺、甕、大甕、たこ壺等がある。土師器の高杯、鉢、甕、たこ壺、そして古墳時代前期の布留式の甕の破片が出土している。包含層にも布留式土器が破片であるが幾らか含まれている。土師器たこ壺も出土しており、この形態は須恵器たこ壺と同様である。須恵質の壺と甕が外側で、融着している資料も出土している。近くに須恵器窯が存在している事を推測させる資料である。資料数としては古墳時代後期の遺物のうち最も多い時期が陶邑編年2-3段階である。この層に中世や近世の資料が混在しているが、後世の攪乱の資料を全て取り除けなかった為と推測した。そしてⅢ層と比較すると奈良時代の遺物が減少しているのと、掘立柱建物13の柱掘方が包含層のⅤ層を貫いていないからで、Ⅵ層の形成時期は奈良時代前後かと考えられる。

Ⅶ層は開析谷最下層であり、出土した遺物は奈良時代では杯蓋や甕がある。古墳時代の須恵器では杯身、杯蓋、高杯、壺、埴瓶、甕が出土している。高杯の脚部で下方に大きく開く形状や、下端部に端面を作るもの、先端を丸めるもの、先端を内側に内湾させるものなど数多くの形態が見られる。土師器の高杯、たこ壺、甕が出土している。甕の口縁部が曲線状に外反している形態のものがある。それとともにサヌカイト剥片が出土している。これらはⅦ層上面の遺構の掘り残した部分から出土したり、Ⅶ層が堆積していない箇所でもⅦ層として取り上げていた為と考えられる。本来的にはこの層は無遺物層として考えている。

Ⅳ まとめ

各遺構から出土した遺物や開析谷に含まれる遺物、台状部の包含層の遺物を総合して各時代の実態を想定すると次のようになるうか。

A) 旧石器・縄文・弥生時代

サヌカイト剥片が数点出土している。原位置を保って出土したものはなく、すべて後世の遺構、堆積層からである。出土状態と層位から時代を推定する事はできない。製品では石鏃が1点出土している。この石鏃は古墳時代後期Ⅳ層の下層の落込から出土しており、古墳時代後期の窪んだ箇所に堆積した層の中に混じり込んだと考えられる資料である。及び砂岩製品が1点出土している。細長い棒状の截頭円錐状を示し基底部が平坦で物を磨り潰す目的の製品と考えられるが、底面には何も付着していない。土器では弥生時代の同一固体の壺と思われる生駒西麓産の胎土破片が数点出土している。以上の資料からごくわずかであるが古墳時代以前にも調査地からそう遠く

ない箇所では人々の生活が営まれていた事を推測させる。中位段丘上に縄文時代人や弥生時代人がすでに登場していた事を窺わせる。

B) 古墳時代前期

包含層や落込内から布留式甕や二重口縁の甕、直線状に開いたラップ状口縁部を持つ丸底の壺などが出土している。これらの廃棄された遺物は台状部Ⅴ層、Ⅵ層形成時に入り込んだようである。出土した数量も1、2点と言った少量ではない事から調査地付近のすぐ近くにこの頃の遺構が存在している事を推測させる。この頃に東側開析谷、西側開析谷で水田耕作がなされていた事を示す根拠である畦畔の存在や水田耕作層などを発見できなかった事から、水田経営は当調査範囲内では営まれていなかった可能性が考えられる。

C) 古墳時代後期

掘立柱建物13を除く掘立柱建物の柱掘方内から出土した遺物や溝、落込、土坑内など台状部の遺構内から出土した遺物の示す年代は6世紀後半の短い期間の資料に限られる。そして一時期空白期を於いて8世紀末から9世紀初頭に台状部西端に掘立柱建物13が再び建てられている。集落は継続せずに空白期間がある。しかし包含層Ⅰ～Ⅶ層出土遺物を見れば、古墳時代後期から7世紀前半期まで連続して見られるが、7世紀後半期の遺物は全く見られず、その後8世紀には再び遺物が出土している。調査区内の集落の継続期間は6世紀後半と、8世紀末～9世紀初頭の非常に短い限られた期間であるが、周辺の他の集落で順次継続して営まれていたために、Ⅰ～Ⅶ層から出土する遺物は1時期空白期間を示しつつも継続している出土状況を示すと考えられる。

D) 飛鳥・奈良時代

開析谷の落込6や土坑14・53、溝4などからこの時代の遺物が多く出土している。しかしこの頃の遺構は見当たらない。包含層や開析谷内の落込内から出土している資料では台状部の遺構内から出土している遺物の示す時期より幅が広い時期の資料が出土しており、4世紀頃、6世紀後半から7世紀前半、8世紀の資料が出土している。陶器編年のⅢ型式の前半の須恵器まで出土している。しかし杯蓋の内面に返りを持つ種類は出土していない。次は奈良時代に入った頃の返りを消失した遺物が再び出土している。調査した範囲では非常に限定された時期に限って集落が営まれていたが、調査範囲外の至近距離には台状部の集落に引き続く集落が奈良時代頃には営まれていた可能性がある。しかし7世紀後半の一時期のみ分らない。奈良時代末から平安時代初頭に掘立柱建物13が出現していたようである。この頃に包含層Ⅴ層が形成された可能性がある。

E) 平安時代

台状部西端に奈良時代末期から平安時代初頭頃の掘立柱建物13が再び1棟出現している。この

建物周辺に調査範囲外とあわせて数棟からなるこの時期の集落が営まれていた可能性がある。しかし継続期間はそう長くはないようである。またこの頃の遺物は非常に少ないし、後に引き続く遺物も出土していない。そしてこの時期の遺構は掘立柱建物13以外に見られない。そしてこの時期以降に台状部上に集落が営まれる事はないようである。集落廃絶以後に包含層Ⅵ層が形成された可能性がある。

F) 鎌倉時代

この時代を示す遺構、遺物は見当たらない。

G) 室町時代

落込7Aがこの時代の遺物を出土している遺構である。そして開析谷のⅢ、Ⅳ層が該当している。開析谷の堆積層から瓦質土器の甕や椀、羽釜が出土している。体部外面のヘラ磨きがかなり消えてきた時期の瓦器椀などの遺物も出土している。室町時代の13世紀前後から調査地付近で開発作業が開始されたようである。しかし体部外面に丁寧にヘラ磨きを行った古い時期の瓦器椀などは当遺跡では全く出土していない事から開発時期は中世でも少し下の時期から開始されたと推測する。この時期の遺構は東側開析谷に落込7Aや溝22等があり、台状部から離れた箇所ではⅣ層が堆積している。開析谷底部に水を流す溝を構築したり、掘り込む作業がなされていたらしい。台状部から離れた東側のⅣ層では水田遺構は検出されていないが、削平されたためわからない。短い期間であるが水田を営んで水稲耕作を行った可能性もあるようだ。しかしⅣ層上面も更池の溜池築造時に掘り下げているらしく、この時に底部にあった中世の遺構が削られてしまった可能性が考えられてわからなくなったらしい。

H) 安土桃山時代

この時代には開析谷Ⅲ、井戸A・Cが該当する。東側開析谷は更池が築造され、底に次第にヘドロが堆積していた時代である。一方台状部の様相は後の削平が著しくて分かり難いが、水田が造られて、井戸A・Cが灌漑用の井戸として用いられていた可能性もある。井戸Cについては、台状部裾部のⅢ層上面から掘削されており、この時代の終わりか江戸時代の初頭に更池が干上がった時期があったようである。しかし、この後再び溜池として使用されている。

I) 江戸時代

この時期は井戸Bと開析谷の更池底に堆積したⅠ層、及び旧耕作土であるⅡ層が該当している。開析谷では更池築造時に底部が掘削され、貯水能力が高められていたようであるが、次第に底部にヘドロが堆積してくる。岸に近い箇所では特に多量のヘドロが堆積し、溜池の機能は相当落ちている。そして調査地周辺のヘドロの厚く堆積した岸に近い部分は、一部分江戸時代前期と思わ

れる頃に溜池から水田に使用目的を変えている。この水田開発時に恐らくは台状部のⅤ、Ⅵ層の古墳時代後期の集落跡の上に堆積した厚い包含層の高い部分が削られて平坦にされ、開析谷が埋没した部分とはほぼ同じ高さにまで削られた後に、旧更池部分も水田に造られて、一面が水田として広がっていたようである。この時に使用されていた井戸が井戸Bである。

J) 近代・現代

調査地全域は水田として、主要地方道大阪中央環状線建設時前まで使用されていた。中央環状線建設に伴う工事で破壊された箇所以外では水田の耕作土が残存していた。

1993年に当遺跡を含む新金岡交差点付近の地下交差化工事が開始され、現在この工事が進捗している。周囲には新金岡団地が建設されて、往時の風景は全く変わってしまって、現在では住宅地域として使用されている。南側に広がる畑地には長曽根遺跡が広がっている。現在区画整理事業に伴って埋蔵文化財調査が実施されている。当遺跡の成果と長曽根遺跡の成果を合わせて考察するならば、より一層の新しい事実が判明するものと思われる。

V 遺構の変遷

次に遺構の形成された時期と開析谷を合わせて、当遺跡の時代変遷を考えると、以下のようまとめられよう。

I 期 開析谷が砂層で埋没してゆく時代

東側開析谷にⅦ層の砂層が堆積して、次第に埋没していった時代である。Ⅶ層中から土器は出土しなかったので時期確定は難しい。西側開析谷は比較的細かな粘質土層が堆積して、東側の状況と少し異なっている。

II 期 台状部に掘立柱建物が作られて、集落を形成していた時代

掘立柱建物が3時期、3群が考えられて、1群建物では規画的な建物配置を行っていた可能性がある。2群建物の時期では溝で周囲を囲い、より大きな規画性を持つ建物配置であった可能性がある。しかし調査区内には一部分入るだけで、大半の部分の構造は分からない。台状部遺構内からは陶邑編年Ⅱ－3段階の須恵器が出土している。

この頃の東側開析谷には溝2・3・5・8などの溝や、土坑、落込1がある。西側開析谷には溝27、溝29、溝31が流れている。隣接する集落から運ばれた布留式甕や二重口縁甕等の古墳時代前期の遺物も出土している。

この頃に東側開析谷、西側開析谷での開発が始まり、水路を掘り、農業用水を導いていたよう

である。しかし調査区内に水田は無く調査区外に水田を作り農耕をしていたようである。

Ⅲ期 3群の掘立柱建物群が形成される時期

台状部西端に古墳時代後期の掘立柱建物の掘方よりはるかに小型の直径20～30cmの掘方が集中している箇所がある。ここに古墳時代建物とは方位を違えた建物が立てられている。柱掘方から黒色土器が出土している。

Ⅳ期 落込・溝の時代

開析谷底部のうち台状部に寄った箇所では落込や溝が掘られている。室町時代には台状部に沿って灌漑用水が流されたり、また新しく開析谷底部が掘られたりしている。しかし台状部から離れた開析谷では湿地状堆積を示して、時として動物が訪れて、偶蹄目類の足跡をⅦ層上面に残している。この時期は堆積層Ⅳ層が該当する。この層の上面には水田や溝は発見できなかった。後世の溜池築造にこの層の上部が削られたと考えられる。

Ⅴ期 溜池の時代A

開析谷下層に堆積層が灰褐色がかった色調を見せる。Ⅲ層に相当する。この上面で畝溝が残っていないか確認したが、畝溝は全く検出されなかった。Ⅲ層上面から井戸Cが掘りこまれている。一時期溜池として使わなかった時期があるのかも知れない。瓦器碗や瓦質土器すり鉢等が出土している。

Ⅵ期 溜池の時代B

東側開析谷が更池として用いられて水が蓄えられて、ヘドロ状の堆積物が厚く堆積していた時代である。Ⅰ・Ⅱ層がこの時期に相当する。この堆積層の上面に耕作土層が被っている。瓦質土器の叩き甕や口縁部が直立した羽釜が出土している。

Ⅶ期 水田の時代

調査地全面が水田として用いられて、耕作していた時代である。更池全体ではヘドロ状堆積が著しく厚くなり、一部分が水田としていたと考えられる。染付や近世陶磁器類が出土している。

各時期は次のように考えている。

Ⅰ期 縄文時代～古墳時代中期で詳しい時期は確定できない。

Ⅱ期 古墳時代後期

Ⅲ期 奈良末～平安時代初頭

Ⅳ期 室町時代頃

Ⅴ期 安土桃山時代

Ⅵ期 江戸時代前期

Ⅶ期 江戸時代前期～現代とおおよそ推測されよう。

VI 覚え書き

次に出土した遺物や遺構について、気付いた事を少し述べて、当遺跡に関する理解を一層深めて頂きたい。

1. 須恵器

新金岡更池遺跡から出土した須恵器には特徴がある。通常の集落では出土する数の少ない器種が比較的多く見られる傾向がある。長脚二段高杯でこの高杯は細かく見ると、高さや脚部の長さ、脚端部径が異なって、実に多くの変化した形態がある。この中でも通常良く見かけるのは脚端部径が約15cm前後のものが多く、杯部は脚端部とほぼ同じか少し大きい。しかし当遺跡出土の須恵器では脚端部径が杯部の径より大きく、直径20cm前後を測るものが幾つか見られる。そして透かし穴が二方向ではなく、三方に開けている物が多い。また器台形土器も破片が幾つか出土している。鉢状の受部、脚端部などである。一方では筒形器台と思われる破片も出土している。このように筒形器台と高杯形器台の2種類の形態の遺物が当遺跡で出土している。このような遺物の状況は、杯身、杯蓋、そして高杯の多さ、その中でも大型の高杯の出土数が多い事、器台形土器がある事などを考えると、この遺跡の須恵器の器種構成は古墳の横穴式石室内の副葬品の構成に非常に似ているようである。即ち遺物の器種構成面から考えるとどうも地域の豪族の居住地である可能性がある。しかし横穴式石室内から出土している鉄製品や武器、武具類は集落跡からは全く出土していない。この点は異なっている。即ち鉄製品は別として、当遺跡の中心的な建物の居住者は、生駒から葛城山系の麓に築造された横穴式石室を持った古墳に埋葬されていた可能性も考えられる。

2. 新金岡更池遺跡の集落構造

この集落の建物構成を考えた場合、建物規模から見ると余り差がなく、2間×4間から、2間×3間、2間×2間の掘立柱建物からなり、庇を持つ建物は当調査区では見られない。各建物が少しずつ異なった方向性を示しつつ、大半はやや東側に傾いた主軸方位を示している。建物配置構造は掘立柱建物2を中心として、大小の建物が幾つか企画的に建てられていたらしい。掘立柱建物1・2・3・4・10・11は多少主軸方位がずれているが、1群建物として考えられるものである。掘立柱建物8は1群建物の中で同じ場所に立替えが行われたらしい。この1群建物は企画的な配置である事から通常の集落ではなくて、豪族層の居住地、屋敷地であった可能性がある。掘立柱建物5・6・7は少しずつ主軸方位が異なっていて、主軸方位が少し北側へ振っている。そして後者の2群建物が1群建物より後に出現しているようだ。この建物は調査区外に中心建物があったらしく、溝15、溝25がこの2群建物に伴っている。当遺跡の集落の中心部分は、四周を

溝で囲った中に広がり、北東側は溝15に、北西側は溝20と溝25に囲まれている。この溝で区画された範囲内に集中していたと考えられる。1群建物は北端の掘立柱建物10から南に掘立柱建物11があり、この両側に掘立柱建物3・4があり、この南側に掘立柱建物2がある。そして掘立柱建物2の南東、南西の両側に掘立柱建物1と調査区外の建物が1棟存在していたらしい。少しづつ角度は異なっているが、それぞれ相互に有機的関係をもって機能していたらしい。溝25で区画された外側に掘立柱建物12・13がある。掘立柱建物13は柱穴内から黒色土器破片が出土している事と他の建物と異なって柱掘方が非常に小さく円形に近い形状を示している。この建物は奈良時代末から平安時代初頭の時間幅の中で考えられる存続期間である。一方、掘立柱建物12の主軸方位を見ると、1群建物と非常に似ており、1群建物と同じ時期か、或いは何らかの関連性を持っていたと考えられる。一方、掘立柱建物13は1群建物、2群建物とも主軸方位が異なっている。もし分けるとするならば掘立柱建物13は3群建物として考えられる。まず最初に1群の建物が掘立柱建物2を中心建物として、周囲に付属する建物を持った企画的な構造を持った建物群として考えられる。小規模な企画的配置を持った1群建物の後に、溝で周囲を囲ったより大きな企画配置を持った2群建物が建てられていた可能性がある。中心部分は調査区外なので詳しい事は分からない。そして溝25と溝24は区画溝と門を囲う溝であるかも知れない。門の延長線上付近に2群建物の中心部分が存在した可能性がある。即ち豪族の居住地が1群建物より溝と門を持ったより大規模な構造に変質した可能性が考えられる。

1群建物、2群建物の2時期には開析谷部分で落込1や溝1の上層のⅣ層が堆積している。1群建物、2群建物の時期に、調査区内には水田は見られないが調査区外に水田を営んでいた可能性がある。そしてその後、Ⅳ層が堆積している。このⅣ層上面で奈良時代頃から水田を営んでいた可能性があるが、Ⅳ層上部が削られたらしい事と、Ⅳ層内から中世の遺物が出土している事から今一つ判断し難いが、奈良時代、平安時代を通して東側開析谷は水田として使用されていた可能性もあるようだ。一方西側の開析谷では溝27や溝29、溝31が流れていて調査地外の西側開析谷のより低い箇所にも水田が営まれていた可能性がある。すなわち東西の開析谷の水田と、水田に挟まれた台状部に屋敷地が営まれていた景観が復元できるのではないだろうか。

3. 器種構成表について

当遺跡で出土した遺物はどのような器種がどの程度使用されていたかを知る目的で各種遺物の出土破片総数を計測した。当遺跡では完形品の出土量は少なく、破片でしか計測できなかった。この為近似値としてもかなりの誤差が生じている事を念頭に置かなければならない。

そして計測にあたっては、以下の点に注意した。

須恵器

杯身は受部と立ち上がり部が伴っている資料のみ計測した。従って体部破片は計測していない。杯蓋は口縁部先端のある破片のみ計測した。

高杯杯部は杯身と混同するが、杯部底面に脚柱部が付いた痕跡が残っている資料のみ計測した。従って口縁部資料では高杯杯部と杯身の区別は不可能なので、杯部底面の資料だけ計測している。この為高杯の杯部破片が一方は杯身に計測されて、他方高杯杯部が高杯に計測されて双方に別れている可能性が充分ある。

脚部は脚柱部と脚端部の双方で計測した。この為同一固体の破片が両方に計測されている可能性がある。

脚部の大小は大が長脚高杯、小が短脚高杯の脚部を意味している。長脚高杯の脚端部径が約15cmと約20cmの2種類あるようだが、この区別は省略した。

無蓋高杯の杯部は体部外面に稜を作る資料の破片のみ計測した。従って稜の無いものについては杯蓋に計測されている可能性がある。

器台形土器は杯部破片、脚端部破片の双方それぞれの数を計測した。須恵器鉢との区別ができないので、誤って他方に計測している可能性もある。

壺は体部直径10cm未満のものと10～20cmのものに区別した。体部内面が叩痕を持たずに回転ナデで調整された遺物を対象としている。10cm未満のものについては体部破片、口縁部破片とも計測している。10～20cmでは口縁部破片のみで計測している。

甕は体部外面が叩き調整を持ち、内面にも青海波の叩痕があるものを対象として計測している。これも口縁部破片で計測した。体部直径が20～30cmのものであるがおおよその推測である。これより大型は大甕として計測している。

堤瓶、平瓶、横瓶は特徴ある部位があれば、それぞれ計測している。

甌は口縁部と体部の穴のある破片で計測している。

長頸壺は細長い口縁部とこの器種を示す部位があれば計測している。

鉢は口縁部で計測している。器台と混同して計測している可能性が高い。

たこ壺は紐を取り付ける穴の部位と、口縁部の1/2以上の破片で計測している。

有蓋高杯蓋はつまみを持つ蓋で計測している。しかし奈良時代の杯蓋のつまみ部分と混同する可能性があるため、口縁部が下方に湾曲した形態を示すものに限って計測している。

土師器

全体的に磨耗や破損が著しく計測がむつかしい。

椀や杯類は磨耗が著しく、どこか部位か分からないものが多い。口縁部と思われる破片のみ計測している。

高杯では杯部口縁部か、杯部の脚柱部が付く箇所の破片で計測している。脚部は脚柱部と脚端部の双方とも計測している。この為同一個体破片が幾つかの項目で計上されている可能性がある。

壺は特徴ある部位を示す破片を計測している。

甕は口縁部破片で計測している。

鉢は口縁部破片で計測している。

長頸壺は長い口縁部で計測しているが、体部が球形なので、体部破片が壺として計測されている可能性がある。

たこ壺は紐を括る穴と口縁部が半分以上ある資料で計測している。

羽釜は特徴ある鏝の部分で計測している。

以上計測方針を示したが、口縁部1/2以上のもののみ計測するなどの制限を設けると、殆どと言って良いほど数えられないのが、当遺跡の遺物の出土状況である。

そして先にも述べたが、同一個体の2箇所の部位をもって計測している器種が多い事から正確さには欠けた、極めて大雑把な数字として現れていると考えられる。以上の点に注意して表の数字を読んでいただきたい。

表1 器種構成表

器種	遺構							遺構小計(%)	1層	2層	3層	4層	5層	6層	その他	包含層小計(%)	総計(%)
	土坑	溝	ピット	井戸	落込												
須	杯身	5	32	12	3	49	101 (27.30)	1	1	22	9	36	17	32	118 (22.82)	219 (24.69)	
	杯蓋	2	28	6		20	56 (15.14)	1	1	11	8	35	10	16	82 (15.68)	138 (15.56)	
	高杯杯部		2			4	6 (1.62)			1	3	2	1		7 (1.35)	13 (1.47)	
	脚部(小)	2	4	2		5	13 (3.51)			2	1	2	16	1	22 (4.26)	35 (3.95)	
	脚部(大)		25	9	3	44	81 (21.89)	1	3	34	9	40		22	109 (21.08)	190 (21.42)	
	無蓋高杯杯部		2	1		1	4 (1.08)			1					2 (0.39)	6 (0.68)	
	有蓋高杯杯部		1				1 (0.27)							1	1 (0.19)	2 (0.23)	
	器台受部		1				1 (0.27)							1	1 (0.19)	2 (0.23)	
	器台脚部		2				2 (0.54)									2 (0.23)	
	壺(小)10cm		2			10	12 (3.24)		1	14	3	2		6	26 (5.03)	38 (4.28)	
壺(中)20-10cm		3			3	12 (4.86)		6	11	8	8	5	14	52 (10.06)	70 (7.89)		
壺 30-20cm		8	1		3	12 (3.24)			4			1	3	8 (1.55)	20 (2.25)		
大壺		1			4	5 (1.35)			6	1	2	3	2	14 (2.71)	19 (2.14)		
提瓶・平瓶・横瓶		2			3	5 (1.35)					1		3	4 (0.77)	9 (1.01)		
器	埴		1	1		2	4 (1.08)		1				2	1	5 (0.97)	9 (1.01)	
	長頸壺					1	1 (0.27)	1		5		1		1	8 (1.55)	9 (1.01)	
	鉢		1				1 (0.27)			2				1	3 (0.58)	4 (0.45)	
	たこ壺		2			1	3 (0.81)			1			1		2 (0.39)	5 (0.56)	
土	杯																
	高杯杯部		4	1		5	10 (2.70)						4	8	12 (2.32)	22 (2.48)	
	脚部	1	2	3			6 (1.62)						7		7 (1.35)	13 (1.47)	
	壺(小)											1			1 (0.19)	1 (0.11)	
師	壺(中)				2		2 (0.54)									2 (0.23)	
	壺	3	6		1	7	17 (4.59)					3	8	1	12 (2.32)	29 (3.27)	
	鉢																
	長頸壺				1		1 (0.27)									1 (0.11)	
器	たこ壺	1	5			2	8 (2.16)			1		6	7	4	18 (3.48)	26 (2.93)	
	羽釜								1	2					3 (0.58)	3 (0.34)	
	合計	15	133	39	10	173	370 (99.97)	4	15	116	42	141	84	115	517 (99.99)	887 (100)	

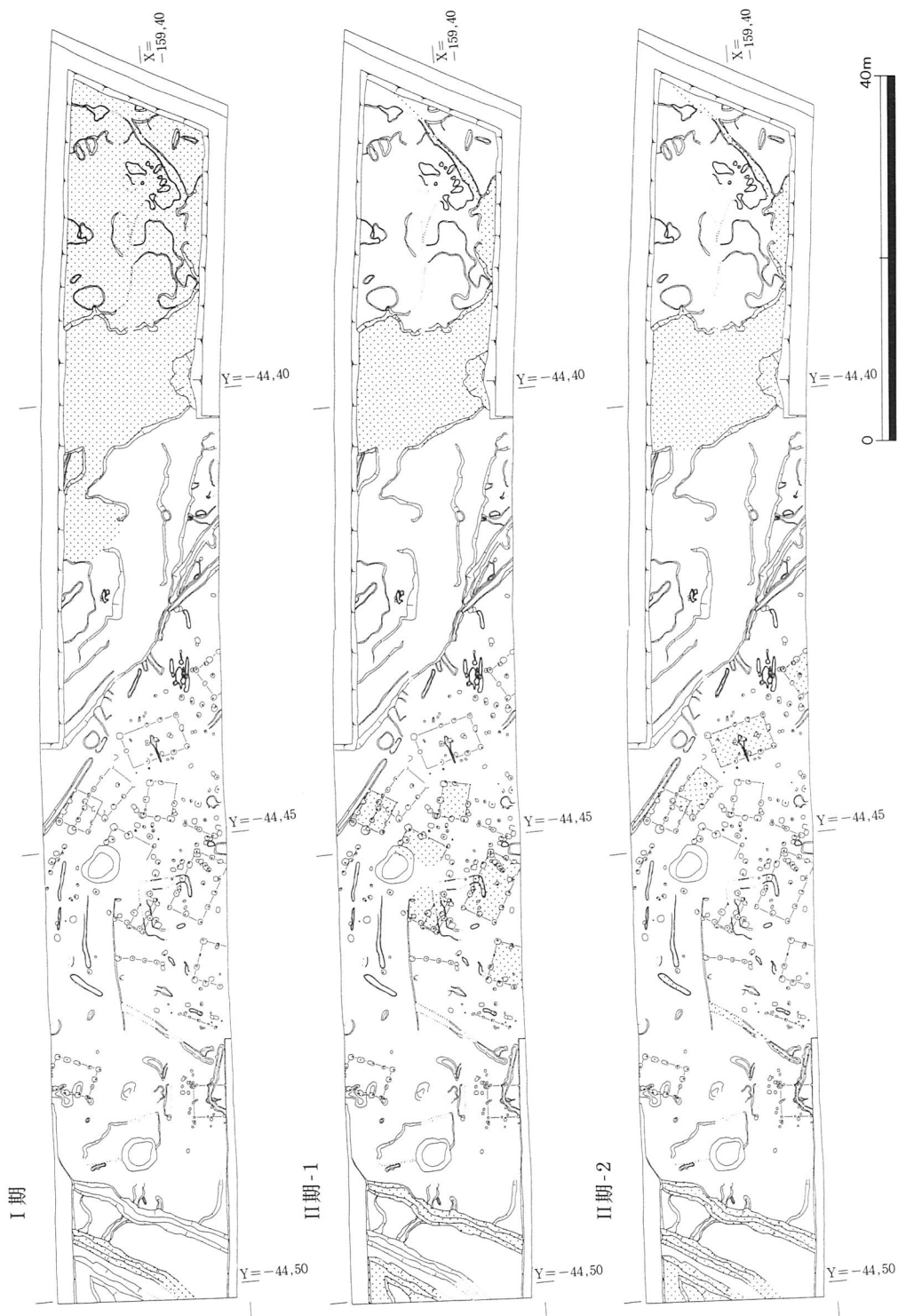


图37 变迁图 I

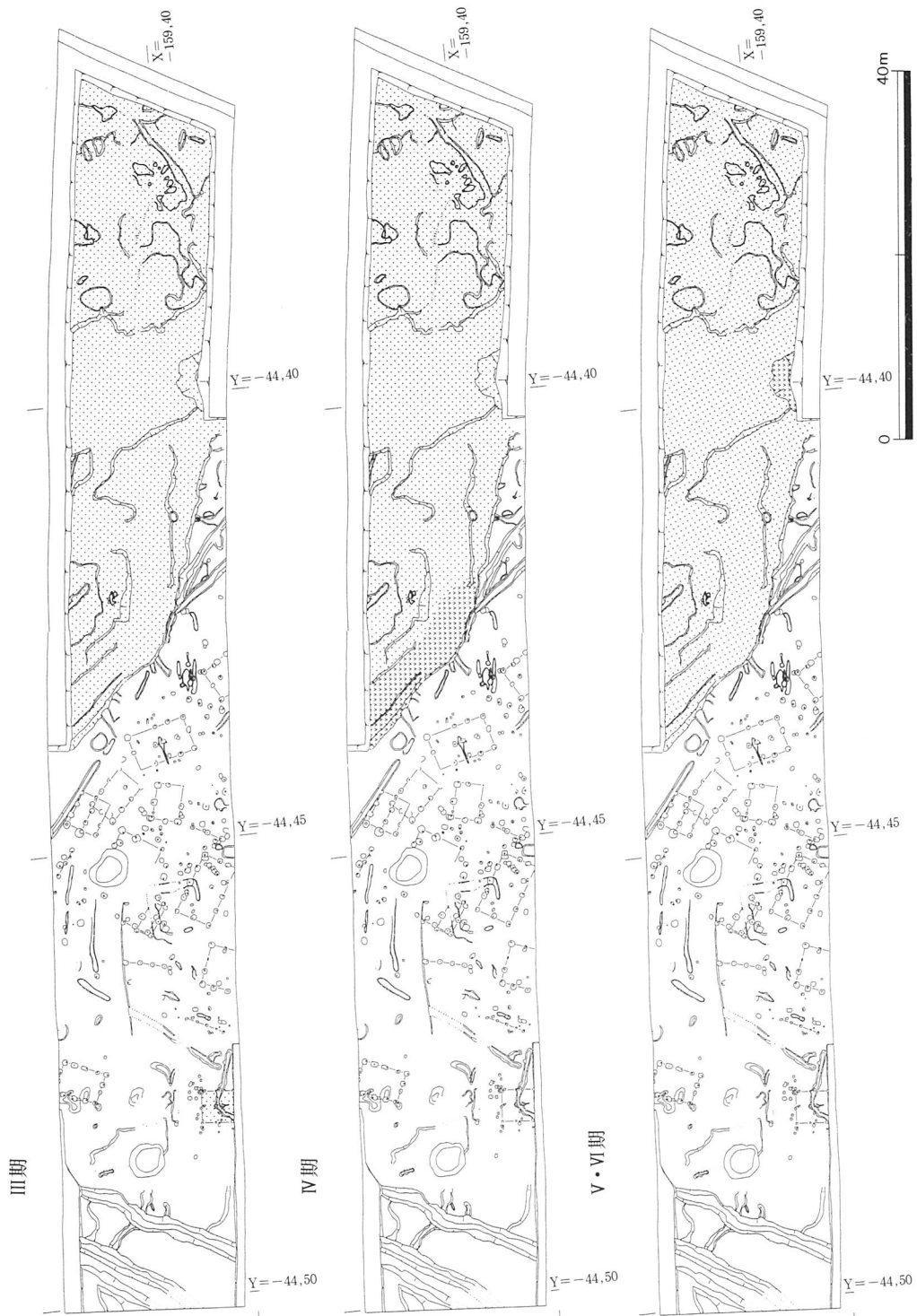


图37 变迁图 II

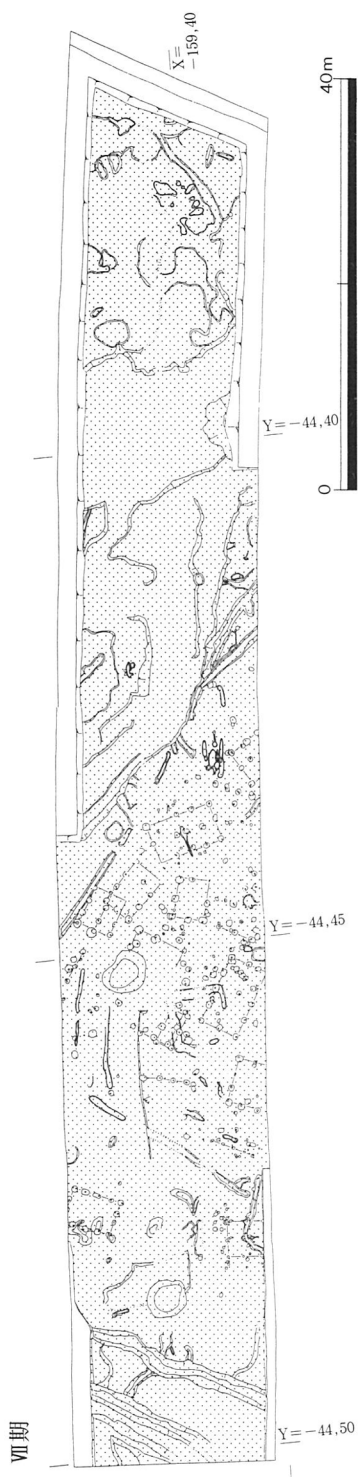


图37 变迁图 III

報 告 書 抄 録

ふりがな	しんがたがらひき								
書名	新金岡更池遺跡								
副書名	中央環状線新金岡交差点立体工事に伴う発掘調査報告書								
巻次	—								
シリーズ名	—								
シリーズ番号	—								
編著者名	入江正則								
編集機関	(財) 大阪文化財センター								
所在地	〒 536 大阪府大阪市城東区蒲生2丁目10-28 大阪府城東庁舎7F TEL 06-934-6651								
発行年月日	西暦 1994年 8月 31日								
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ′	° / ′		m ²		
しんがたがらひき 新金岡更池遺跡	しんがたがらひき 大阪府堺市新金岡	27201	213	34° 33′ 45″	135° 31′ 07″ .5	1993. 10. 20 1994. 02. 03	約2,650	主要地方道中央環状線新金岡交差点内立体化工事に伴う事前の埋蔵文化財調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
新金岡更池遺跡	集落跡	古墳時代後期 奈良時代後期から平安時代前期 中世 近世	掘立柱建物 塀 溝 土坑 落込 ピット 掘立柱建物 溜池 井戸 溜池 井戸	11棟 4条 31条 56基 11基 317基 1棟 1基 2基	古墳時代前期 布留式土器 古墳時代後期 須恵器 土師器 奈良時代 中世	甕 杯身・杯蓋・高杯 甕・壺・甕・大甕 たこ壺 高杯・甕・たこ壺 軒丸瓦(1点) 瓦器椀・瓦質甕 平瓦・丸瓦 軒丸瓦(2点)	古墳時代後期の掘立柱建物の集落跡と溝 近世の堆積層		

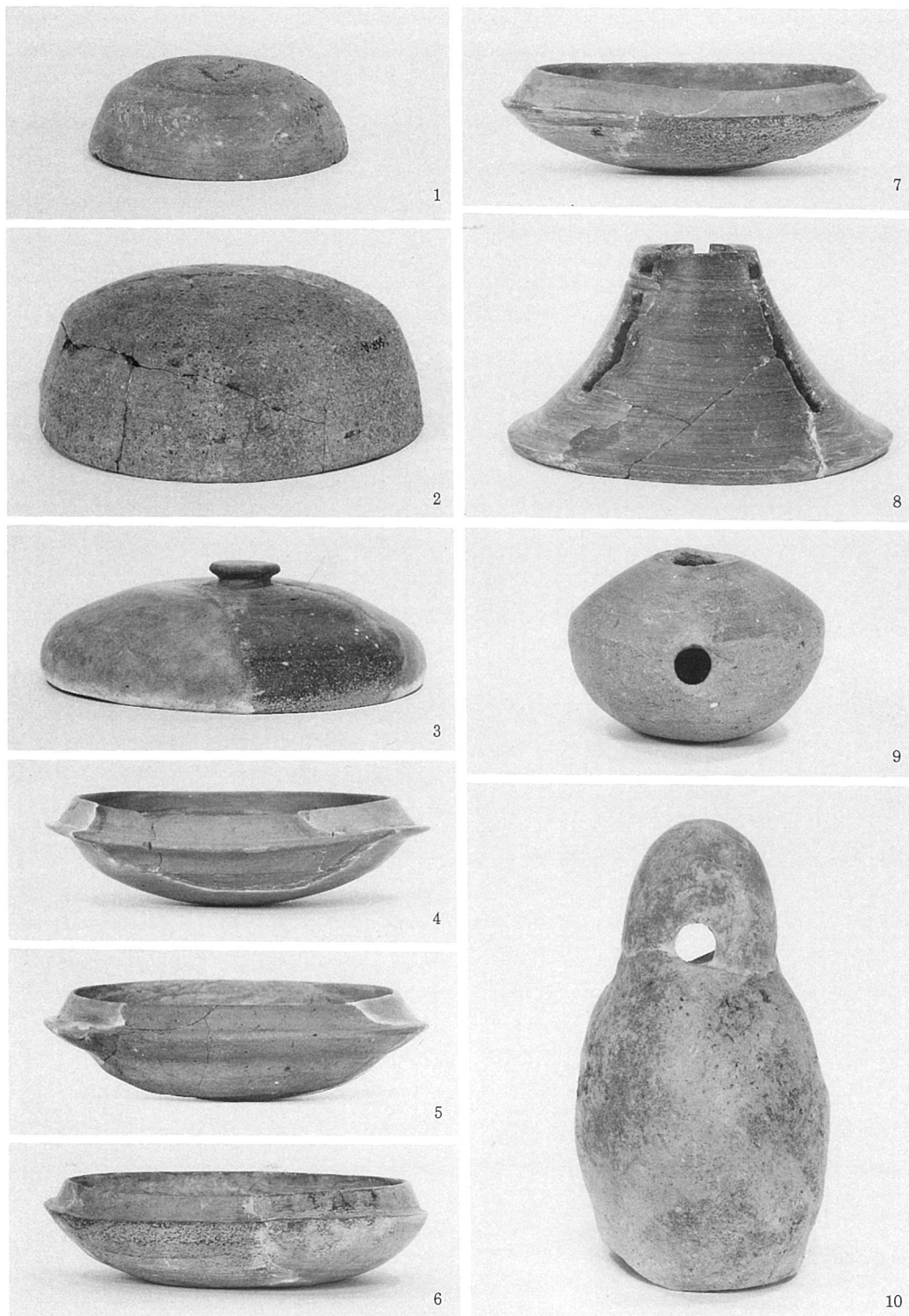


写真42 溝出土遺物

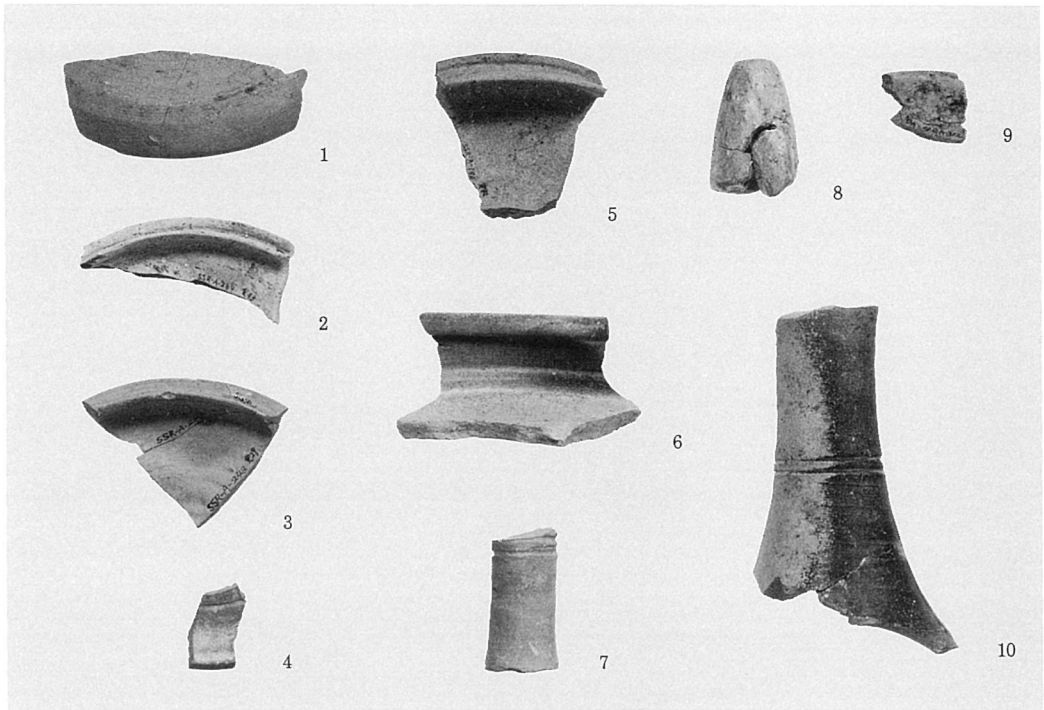


写真43 ピット出土遺物

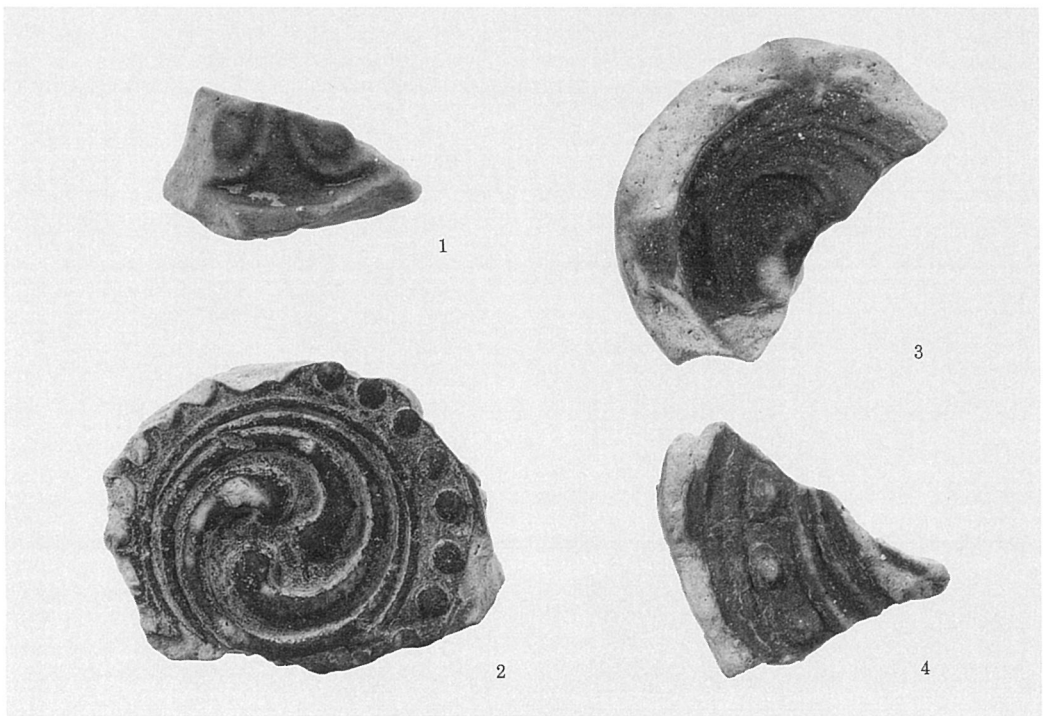


写真44 包含層出土遺物(1)

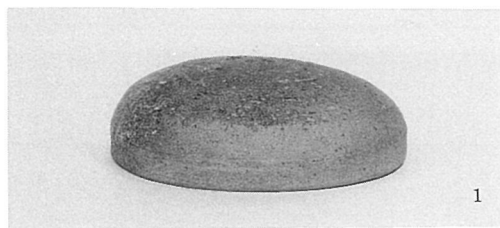


写真45 包含層出土遺物（2）

表2 掘立柱建物一覽表

(<は未調査区に伸びる可能性を示す)

掘立柱建物 番号	トレン チ	地区割	桁 行間	梁 行間	規 模 (m)				本文 P.	遺 構			出土遺物			備 考
					長さ	短 辺	床面積㎡	方位 度		図	写真	時代	図	写真	時代	
掘立柱建物-1	1 A	D5j7	3	2<	4.35	3.20<	13.92<	N-70°-W	11	7,8,9	4,5			古墳時代	ピット.99,100,102,103,104,105,107,110	
掘立柱建物-2	2 A	D5j6	4	2	6.90	4.00	27.60	N-58°-W	11	7,8,10	6,7			古墳時代	ピット.71,73,82,88,90,93,96,97,166,213	
掘立柱建物-3	2 A	D5j6	2	2	3.65	2.85	10.40	N-54°-W	12	7,8,11	8			古墳時代	ピット.164,171,174,176,240	
掘立柱建物-4	2 A	D5j5	2	2	3.80	2.95	11.21	N-72°-W	12	7,8,12	9,10			古墳時代	ピット.56,57,133,134,135,142,144,227	
掘立柱建物-5	2 A	D5j5	3	2	5.05	3.15	15.90	N-47°-W	12	7,8,13	11	33-2	43-2	古墳時代	ピット.137,138,154,184,185,187,188,236,238	
掘立柱建物-6	2 A	D5i4	4	2	6.40	3.85	24.64	N-16°-W	13	7,8,14	12,13,14	33-4	43-5	古墳時代	ピット.25,29,30,39,40,41,131,214,229,233,234	
掘立柱建物-7	2 A	E5a4	2	2<	3.80	3.00<	11.40<	N-29°-W	13	7,8,15	14,15			古墳時代	ピット.11,12,17,20,217	
掘立柱建物-8	2 A	D5i6,j6	2	1	3.65	1.65	6.02	N-54°-W	13	7,8,16	8			古墳時代	ピット.165,173,175,177,241	
掘立柱建物-9															抹消	
掘立柱建物-10	2 A	D5i5	3	2	3.90	3.50	13.65	N-61°-W	14	7,8,17	16			古墳時代	ピット.186,189,190,191,192,193,194,244,250,255	
掘立柱建物-11	2 A	D5j6	3	1<	4.60	1.60	7.36<	N-58°-W	14	7,8,18				古墳時代	ピット.151,155,157,159	
掘立柱建物-12	3 A	D5i8	4	3	4.75	3.30	15.68	N-24°-E	14	7,8,20	17,18			古墳時代	ピット.290,291,292,293,294,296,296,297,314,315,316,317,318,319	
掘立柱建物-13	3 A	D5j8	2<	2	3.45<	3.45	11.90<	N-3°-E	29	7,8,29	37	33-9	43-9	奈良平安	ピット.258,260,262,273,276,301,302,308	

表3 堀一覽表

建 物 番 号	トレン チ	地区割	桁 行間	長さ	方位 度	本文 P.	遺 構		出 土 遺 物			備 考
							図	写真	図	写真	時代	
堀-1	2 A	D5j8	5	5.30	N-25°-E	7,8,20		33-5	43-10	古墳時代	ピット.112,113,118,119,123,125	
堀-2	2 A	E5a5,6	2<	3.32<	N-30°-E	7,8,21	19				ピット.59,62,66	
堀-3	2 A	D5i6	2<	3.08<	N-55°-W	7,8,22	20				ピット.195,198,242	
堀-4	2 A	D5i7	3	4.14	N-16°-E	7,8,23					ピット.178,179,181,209	

表4-1 溝一覽表

土師器(土)須磨器(須)

遺構番号 本報告	トレン チ	地区割	規 模 (cm)			主 要 埋 土	形 状	本文 P.	遺 構		出 土 遺 物			備 考	
			長さ	幅	深さ				図	写真	図	写真	時代		器 種
溝-1	1 A	D4j7,8	2100<	200<	24	灰黄色2.5Y6/2粘質土	L形	20	7,24	24			古墳時代	(土) 甕形杯身(須) 杯身	
溝-2	1 A	D5a2	350<	130	13	灰黄色2.5Y6/2粘質土	Y形	7						(土) 甕(須) 杯蓋	
溝-3	1 A	D5j2,3	1100<	110	33	黄灰色2.5Y6/1粘質土	溝状	20	7,24					(土) 高杯. 甕	
溝-4	1 A	D5j3	900<	96	20	にぶい黄色10YR4/3砂質土	溝状	29	7,24		31-14,20			奈良時代	(土) 杯身. 皿(須) 杯身. 高杯
溝-5	1 A	D5j3,4	260	75	15	灰黄褐色10YR4/2粘質土	溝状	7			31-11			古墳時代	(須) 杯身. 高杯脚端部
溝-6	1 A	D5j4	365	45	10	にぶい黄褐色10YR4/3粘質土	踏溝状	7							
溝-7	1 A	D5j3,4	165	42	5	明緑灰色5G7/1粘土	踏溝状	7							
溝-8	1 A	D5j3,4	370	50	8	灰黄褐色10YR4/2粘質土	踏溝状	7			31-3,16	42-8		(須) 高杯脚端部	
溝-9	1 A	D5i6	268	30	3	不明	長楕円形	7							
溝-10	1 A	D5a4	250<	55	25	黒褐色10YR3/2粘質土	溝状	7							
溝-11	1 A	D5j4	96<	20	6	不明	踏溝状	7							
溝-12	1 A	D5i4	175<	85	23	不明	溝状	7						(須) 大甕破片	
溝-13	1 A	D5i4	346<	150<	17	灰黄褐色10YR5/2粘質土	溝状	7							
溝-14	1.2A	D5j4,5	335<	65	11	灰黄褐色10YR4/2粘質土	踏溝状	7							
溝-15	2 A	D5i5	1000<	90	28	黒褐色2.5Y3/1粘質土	溝状	20	7,24		31-29			古墳時代	(土) 高杯杯部(須) 大甕
溝-16	2 A	D5i6	450	40	6	灰色10Y4/1粘質土	踏溝状	7							
溝-17	2 A	D5i6,7	855<	60	7	不明	溝状	7							
溝-18	2 A	D5j6,7	1300<	90	15	灰黄褐色10YR4/2粘質土	踏溝	20	7,24					古墳時代	(土) 破片
溝-19	2 A	D5j7	220<	93	32	灰黄色2.5Y6/2粘質土	溝状	7							
溝-20	2 A	D5i7	1955<	80	23	にぶい黄褐色10YR5/3粘質土	溝状	21	7,24		31-12,17	42-5		古墳時代	(土) 甕(須) 杯蓋. 杯身. 高杯
溝-21	1 A	D5i1	355<	115	20	褐灰色10YR4/1粘質土	溝状	7							
溝-22	1 A	D5i4	850<	90	70	灰黄色2.5Y6/2粘質土	溝状	30	7,24					室町時代	(須) 杯身. 高杯. 甕
溝-23	1 A	D5j3,4	80<	22	3	褐灰色10YR6/1粘質土	踏溝状	7							
溝-24	3 A	D5j8	670<	65	20	褐灰色10YR5/1~6/1粘質土	溝状	21	7,24	25,26	31-8,10,22,28	42-4,6,10		古墳時代	(土) 破片. たこ甕(須) 杯身. 高杯蓋. 甕. たこ甕

表 6 - 2 土坑一覽表

(くは未調査区に伸びる可能性を示す) 土師器 (土) 須恵器 (須)

遺構番号 本報告	トレンチ	地区割	規模 (cm)			主要埋土	形状	本文P.	遺構		出土遺物		備考
			長径	短径	深さ				図	写真	図	時代	
土坑-21	1 A	E5a1.2	250	70<	22	灰黄褐色10YR4/2粘質土	楕円形	27	7				
土坑-22	1 A	E5a2	90	45<	10	灰黄色2.5Y6/2粘質土	不定形	27	7				
土坑-23	1 A	E5a2	125	60	10	灰黄色2.5Y6/2粘質土	不定形	27	7				
土坑-24													抹消
土坑-25	1 A	E5a2	72<	30	15	灰色5Y6/1粘質土	楕円形	27	7				
土坑-26	1 A	D5j3	450	135<	28	黄灰色2.5Y5/1粘質土	長楕円形	27	7			古墳時代	(土) 破片 (須) 杯蓋
土坑-27													抹消
土坑-28													抹消
土坑-29	1 A	D5j3	60	50<	23	褐灰色7.5YR4/1粘砂質土	正方形	27	7				土坑ではなくピット?
土坑-30	1 A	D5j3	63	35<	28	明褐色7.5YR7/1~にぶい黄褐色10YR7/3粘砂質土	正方形	27	7				土坑ではなくピット?
土坑-31	1 A	D5j3	230	50	30	褐灰色7.5YR6/1粘砂質土	不定形	27	7				
土坑-32	1 A	D5j3	370	60<	23	灰白色5Y7/1粘質土	溝状	27	7,27			34-3	古墳時代 (土) 高杯 (須) 壺 器台
土坑-33	1 A	D5j3.4	130	55	15	灰白色2.5Y7/1粘質土	不定形	27	7				(土) 碗 (須) 杯蓋, 大甕
土坑-34	1 A	D5j4	260	85	14	灰色10YR6/1粘質土	不定形	27	7				
土坑-35	1 A	D5j4	195<	45<	5	不明	不定形	27	7				
土坑-36	1 A	D5i4	200	160<	23	にぶい黄褐色10YR5/3粘質土	楕円形	27	7				
土坑-37	2 A	D5i6	48<	20<	3	不明	三角形	27	7				
土坑-38	2 A	D5i6	100<	40<	4	不明	不定形	27	7				
土坑-39	2 A	D5i6	120<	110<	3	不明	台形	27	7				
土坑-40	2 A	D5j5	180<	135	5	にぶい黄褐色10YR5/3粘質土	不定形	27	7				
土坑-41	2 A	D5j6	80	63	6	不明	不定形	27	7				
土坑-42	2 A	D5j6	135<	132<	12	灰黄褐色10YR4/2粘質土	正方形	27	7				
土坑-43	2 A	D5j6.7	100	47	13	不明	長方形	27	7				
土坑-44	2 A	D5i7.8	190<	120	32	黒褐色2.5Y3/2粘質土	円形	27	7				
土坑-45	2 A	D5j7.8	165	45	15	にぶい黄褐色10YR5/3粘質土	不定形	27	7			古墳時代	(土) 破片 (須) 破片
土坑-46	2 A	D5j7	118	45	22	不明	不定形	27	7				
土坑-47	2 A	D5j7	180<	50	11	灰黄褐色10YR5/2粘質土	不定形	27	7				
土坑-48	2 A	D5i7	60	20<	2	不明	半円形	27	7				
土坑-49	1 A	D5j2	125	90	40	オリーブ黒色5Y3/1粘質土	楕円形	28	7				
土坑-50	1 A	D4j7	150<	80<	22	暗灰色2.5Y5/2粘質土	楕円形	28	7				落込-4に含まれる
土坑-51	1 A	E5a2	180<	85<	22	暗黄褐色2.5Y5/2粘質土	楕円形	28	7				
土坑-52	2 A	D5i7	130	60	30	黒褐色2.5Y3/1粘質土	長楕円形	28	7				
土坑-53	3 A	D5j8	100	40	7	浅黄色2.5Y7/3粘質土	不定形	28	7			奈良時代	(土) 甕口縁
土坑-54	3 A	D5j8	140<	80	15	褐灰色7.5YR4/1~5/1粘質土	不定形	28	7				
土坑-55													抹消
土坑-56													抹消
土坑-57													抹消
土坑-58	3 A	D5j8.9	378<	88<	10	灰黄色2.5Y6/2~灰白色2.5Y7/1粘質土	不定形	28	7,27			古墳時代	(土) 破片 (須) 杯身, 壺
土坑-59	3 A	D5i8	360	120	63	灰黄褐色10YR6/2~明黄褐色10YH6/6粘質土	不定形	28	7,27	36			
土坑-60	3 A	D5j8	180	100	20	褐灰色5Y5/1粘質土	不定形	28	7				
土坑-61	3 A	D5j8.9	383	60<	10	灰白色2.5Y7/1粘質土	不定形	28	7,29			34-1.2	古墳時代 (土) 甕, たこ壺 (須) 杯身, 杯蓋, 高杯脚, 甕口縁
土坑-62	3 A	D5i8	212	120<	47	灰黄色2.5Y7/2~灰白色2.5Y8/2粘質土	不定形	28	7				
土坑-63	3 A	D5i8	85	70	37	褐灰色7.5YR6/1~明褐色7.5YR7/1粘質土	不定形	28	7				
土坑-64													抹消

表7 井戸一覧表

(くは未調査区に伸びる可能性を示す) 土師器(土) 須恵器(須)

遺構番号 本報告	トレンチ	地区割	規模(m)			主要埋土	形状	本文P.	遺構		出土遺物				備考
			長径	短径	深さ				図	写真	図	時代	器種		
井戸-A	2A	D5i5.6	445<	423<	200<	黄灰色2.5Y6/1粘質土	円形	31	7.30	38			安土桃山	(土) 破片(須) 杯身、壺(ガ) 大甕(瓦) 平瓦、丸瓦	
井戸-B	3A	D5i8.9 39.9	400	390<	400<	黄青灰色5BG4/1粘質土 (小~中硬苔干含む)	円形	40	7.30	39	34-5		吉墳時代 近世江戸	(土) 破片(須) 杯身、高杯脚部、壺、甕(旧石) 剝片 (土) 破片、中骨、平瓦、丸瓦、木片(陶) 碗2点	
井戸-C	1A	E4a10	700	240<	124<	灰黄色2.5Y6/2粘質土	円形	31	7.30						

表8-1 ピット一覧表

遺構番号 本報告	トレンチ	地区割	規模(m)			主要埋土	形状	本文P.	遺構		出土遺物				備考
			長径	短径	深さ				図	写真	図	写真	時代	器種	
ピット-1	1A	D4j8	26	22	11	不明	円形		7						
ピット-2	1A	E4a8	35	35	13	褐灰色10YR5/1シルト質	円形		7						
ピット-3	1A	D4j8	47	40	10	不明	円形		7						
ピット-4	1A	E4a8	35	30	9	不明	円形		7						
ピット-5	1A	E5a2	18	18	3	不明	円形		7						
ピット-6	1A	E5a2	40	35	7	不明	楕円形		7						
ピット-7	1A	E5a2	22	22	6	不明	円形		7						
ピット-8	1A	E5a2	15	13	2	不明	タマゴ形		7						
ピット-9	1A	D5j4	55	54	17	浅黄色2.5Y7/4~灰白色2.5Y8/1 粘質土	半長楕円形		8						ピットではない?
ピット-10	1A	D5j4	50	45	12	黒褐色10YR3/1~褐灰色10YR4/1 粘質土	三日月形		8						
ピット-11	1A	D5j4	61	46	29	黄灰色2.5Y4/1粘砂質土	隅丸台形	13	8,17		14,15				掘立柱建物-7
ピット-12	1A	E5a4	50	40	13	黒色10YR2/1~黒褐色10YR3/1粘 砂質土	楕円形	13	8,17		14,15		吉墳時代	(須) 大甕破片	掘立柱建物-7
ピット-13	1A	E5a4	70	64	39	褐灰色10YR5/1~6/1粘砂質土	扇形		8						
ピット-14	1A	D5j4	28	13	1	不明	くの字形		8						
ピット-15	1A	D5j4	60	50	24	黒褐色7.5YR3/1粘砂質土	長方形		8						
ピット-16	1A	E5a4	50	44	23	黒褐色10YR3/1粘砂質土	楕円形		8						
ピット-17	1A	E5a4	56	40	23	黒褐色10YR3/1粘砂質土	楕円形	13	8,17		14,15				掘立柱建物-7
ピット-18	1A	D5j4	60	55	19	黒褐色7.5YR3/1粘砂質土	円形		8						
ピット-19	1A	D5j4	70	44	40	黒色10YR2/1粘砂質土	長円形		8						
ピット-20	1A	E5a4	57	50	50	灰黄褐色10YR4/2~褐灰色10YR 5/1粘砂質土	四角形	13	8,17		14,15		吉墳時代	(土) 破片 (須) 杯蓋、杯身、高杯	掘立柱建物-7
ピット-21	1A	E5a4	58	44	30	黒褐色7.5YR3/1粘砂質土	四角形		8,17						
ピット-22	1A	E5a4	40	35	39	褐灰色10YR5/1粘砂質土	四角形		8				吉墳時代	(土) 破片	
ピット-23	1A	E5a4	65	60	40	黒褐色10YR3/1粘砂質土	四角形		8				吉墳時代	(土)(須) 破片	
ピット-24	1A	D5j4	51	48	33	黒褐色7.5YR3/1粘砂質土	四角形		8						
ピット-25	1A	D5j4	54	43	21	黒褐色10YR3/1粘砂質土	四角形	13	8,16		11,14		吉墳時代	(土) 甕破片	掘立柱建物-6
ピット-26	1A	D5j4	35	30	10	不明	楕円形		8						
ピット-27	1A	D5j4	26	24	43	赤黒色2.5YR2/1粘質土	円形		8						
ピット-28	1A	D5j4	28	21	20	黒褐色7.5YR3/1粘質土	円形		8						
ピット-29	1A	D5j4	47	40	12	褐灰色10YR4/1粘砂質土	楕円形	13	8,16		11,14				掘立柱建物-6
ピット-30	1A	D5j4	80	40	34	黒色7.5YR2/1~黒褐色7.5YR3/1 粘質土	扇形	13	8,16		11,14				掘立柱建物-6
ピット-31	1A	D5j3	44	33	9	不明	楕円形		8				吉墳時代	(土) 高杯脚部	
ピット-32	1A	D5j4	60	50	28	褐灰色10YR5/1粘砂質土	台形		8,30		33-6,7,10	43-4,7,8	吉墳時代	(土)(須) 高杯脚部	
ピット-33	1A	D5j4	74<	55<	1	黒褐色7.5YR3/1粘砂質土	楕円形		8				吉墳時代	(土) 杯、甕破片(須) 杯身	
ピット-34	1A	D5j4	50	50	28	褐灰色7.5YR4/1粘砂質土	台形		8				吉墳時代	(須) 高杯脚部	
ピット-35	1A	E5a4	26	24	19	黒褐色5YR3/1粘砂質土	円形		8						
ピット-36	1A	E5a4	40	28	20	黒褐色10YR3/1粘砂質土	楕円形		8						
ピット-37	1A	D5j4	34	32	15	にぶい黄褐色10YR7/2~7/4砂質 土	円形		8						
ピット-38	1A	D5j4	34	34	12	にぶい黄褐色10YR7/2粘砂質土	円形		8						
ピット-39	1,2A	D5j4,5	55	50	33	黒色7.5YR2/1~黒褐色7.5YR3/1 粘質土	四角形	13	8,16		11,12, 14		吉墳時代	(土) 甕(須) 杯身	掘立柱建物-6

表 8-2 ピット一覧表

(くは未調査区に伸びる可能性を示す) 土師器 (土) 須恵器 (須)

遺構番号 本報告	トレンチ	地区割	規模 (cm)			主要埋土	形状	本文P.	遺構		出土遺物			備考		
			長径	短径	深さ				図	写真	図	写真	時代		器種	
ピット-40	2 A	D5j5	63	50	24	黒褐色10YR3 1粘質土	楕円形	13	8,16	11,14			古墳時代	(土) 破破片	掘立柱建物-6	
ピット-41	2 A	D5j5	33	21	8	黒褐色10YR3 1粘質土	タマゴ形	13	8,16	11,14						掘立柱建物-6
ピット-42	2 A	D5j5	35	24	3	灰黄褐色10YR4 2粘質土	楕円形		8							ピットではない?
ピット-43	2 A	D5j5	60	43	6	黒褐色10YR3 1粘質土	四角形		8							ピットではない?
ピット-44																採消
ピット-45	2 A	E5a5	60	36	32	黒褐色7.5YR3 1~褐灰色7.5YR 4/1粘質土	長楕円形		8							
ピット-46	2 A	E5a5	55	48	28	褐灰色10YR4 1~灰黄褐色10YR 4/2粘質土	四角形		8							
ピット-47	2 A	E5a5	77<	66<	15	黒褐色7.5YR3 1~褐灰色7.5YR 4/1粘質土	四角形		8							
ピット-48	2 A	D5j5	50<	49<	17	灰黄褐色10YR5 2粘質土	楕円形		8							
ピット-49	2 A	D5j5	16	15	6	不明	円形		8							
ピット-50	2 A	E5a5	10	8	4	不明	半円形		8							
ピット-51	2 A	E5a5	10	9	2	不明	楕円形		8							
ピット-52	2 A	E5a5	50	42	2	黒褐色10YR3 1粘質土	四角形		8							
ピット-53	2 A	D5j5	77<	70	36	黒褐色10YR3 1粘質土	四角形		8							
ピット-54	2 A	D5j5	27	23	11	黒褐色10YR3 2粘質土	半円形		8							
ピット-55	2 A	D5j5	48	2.5	5	にぶい、黄褐色10YR7 2~灰白色10 YR8 1粘質土	長楕円形		8							ピットではない?
ピット-56	2 A	D5j5	62	50	35	黒褐色7.5YR3 1~褐灰色7.5YR 4/1粘質土	四角形	12	8,14	8			古墳時代	(土) 壺口縁部	掘立柱建物-4	
ピット-57	2 A	D5j5	80	60	40	褐灰色7.5YR4 1~5 1粘質土	四角形	12	8,14	8						掘立柱建物-4
ピット-58	2 A	D5j5	30	23	13	黒褐色10YR3 1粘質土	円形		8				古墳時代	(土) 破片 (須) 破片		
ピット-59	2 A	D5j5	45	38	18	黒色2.5Y2 1粘質土	楕円形		8,23	19						堀-2
ピット-60	2 A	D5j5	68	52	17	黒褐色2.5Y3 1粘質土と浅黄褐色 10YR8 4粘質土のブロック状	四角形		8,30		33-1	43-1	古墳時代	(土) 破片 (須) 杯蓋		
ピット-61	2 A	D5j5	40	23	1	黒褐色10YR3 1粘質土	楕円形		8							
ピット-62	2 A	D5j5	52	50	23	黒褐色10YR3 1粘質土	四角形		8,23	19						堀-2
ピット-63	2 A	D5j5	37	34	16	黄灰色2.5Y4 1粘質土	四角形		8							
ピット-64	2 A	E5a5	66<	49<	7	黒褐色10YR3 2粘質土	四角形		8							
ピット-65	2 A	E5a5,6	62	53<	3	黒褐色2.5Y3 1粘質土	半円形		8							
ピット-66	2 A	D5j6	70	50	15	黒褐色2.5Y3 1粘質土	長方形		8,23	19						堀-2
ピット-67	2 A	D5j6	52	46	8	黒褐色10YR3 1粘質土	楕円形		8							ピットではない?
ピット-68	2 A	D5j6	46	32	4	黒褐色2.5Y3 1粘質土	四角形		8							ピットではない?
ピット-69	2 A	D5j6	44	38	3	黒褐色2.5Y3 1粘質土	四角形		8							ピットではない?
ピット-70	2 A	D5j6	43	42	34	黒色2.5Y2 1粘質土	円形		8							
ピット-71	2 A	E5a6	58	52	37	褐灰色10YR5 1粘質土	四角形		8,11	5						掘立柱建物-2
ピット-72	2 A	D5j6	72	40	31	褐灰色10YR4 1粘質土	長方形		8							ピットではない?
ピット-73	2 A	D5j6	49	49	23	黒褐色10YR3 1粘質土	四角形		8,11	5						掘立柱建物-2
ピット-74	2 A	D5j6	58	40	20	黒褐色2.5Y3 1粘質土	四角形		8							
ピット-75	2 A	D5j6	34	30	13	不明	欠円形		8							
ピット-76	2 A	D5j6	58	51	30	黒褐色10YR3 1粘質土	楕円形		8							ピットではない?
ピット-77	2 A	D5j6	30	23	5	不明	四角形		8							
ピット-78	2 A	D5j6	53	42	34	黄灰色2.5Y6 1粘質土	楕円形		8							
ピット-79	2 A	D5j6	63	51	12	褐灰色10YR6 1粘質土	四角形		8							ピットではない?
ピット-80	2 A	D5j6	48	44	7	黒色2.5Y2 1粘質土	四角形		8							ピットではない?
ピット-81	2 A	D5j6	52	44	5	黒色2.5Y2 1粘質土	四角形		8							ピットではない?
ピット-82	2 A	D5j6	55	43<	15	褐灰色10YR5 1粘質土	四角形		8,11	5						掘立柱建物-2
ピット-83	2 A	D5j6	32<	28<	15	褐灰色10YR5 1粘質土	台形		8							
ピット-84	2 A	D5j6	26	21	9	黒色2.5Y2 1粘質土	楕円形		8							
ピット-85	2 A	D5j6	50	50	40	褐灰色10YR5 1粘質土	四角形		8							
ピット-86	2 A	D5j6	62	58	35	褐灰色10YR5 1粘質土	不定形		8							

表 8-3 ピット一覧表

(くは未調査区に伸びる可能性を示す)土師器(土)須恵器(須)

遺構番号 本報告	トレンチ	地区別	規模(m)			主要埋土	形状	本文P.	遺構		出土遺物				備考	
			長径	短径	深さ				図	写真	図	写真	時代	器種		
ピット-87	2 A	D5j6	60<	40<	14	不明	長円形	8								
ピット-88	2 A	D5j6	72	53	48	褐色10YR5/1粘質土	四角形	8,11	5						掘立柱建物-2	
ピット-89	2 A	D5j6	45	40	15	褐色7.5YR4/1粘質土	四角形	8								
ピット-90	2 A	D5j6	60	50	35	にぶい黄褐色10YR6/3粘質土	四角形	8,11	5						掘立柱建物-2	
ピット-91	2 A	D5j6	43	39	38	黒褐色10YR3/1粘質土	四角形	8								
ピット-92	2 A	D5j6	36	33	38	明黄褐色10YR7/6粘質土	楕円形	8								
ピット-93	2 A	D5j6	71	55	14	黒褐色10YR3/2粘質土	楕円形	8,11	5						掘立柱建物-2	
ピット-94	2 A	D5j6	38	28	20	黒褐色7.5YR3/1~褐色7.5YR4/1粘質土	楕円形	8							ピットではない?	
ピット-95	2 A	D5j6	50	27	9	褐色7.5YR5/1粘質土	楕形	8							ピットではない?	
ピット-96	2 A	D5j6	62	52	45	黒褐色10YR3/1粘質土	丸四角形	8,11	5						掘立柱建物-2	
ピット-97	2 A	D5j6	53	50	35	にぶい黄褐色10YR5/4粘質土	丸四角形	8,11	5,6						掘立柱建物-2	
ピット-98	2 A	D5j6	65	42	4	淡黄色5Y8/3~明緑灰色10G7/1粘砂質土	長方形	8							ピットではない?	
ピット-99	2 A	D5j7	65	62	18	灰黄褐色10YR4/2粘質土	丸四角形	8,9	3						掘立柱建物-1	
ピット-100	2 A	D5j7	35	34	8	褐色7.5YR4/1~灰褐色7.5YR4/2粘質土	丸四角形	8,9	3						掘立柱建物-1	
ピット-101	2 A	D5j7	37	30	8	褐色7.5YR4/1粘質土	楕円形	8								
ピット-102	2 A	D5j7	25	22	10	灰黄褐色10YR6/2粘質土	楕円形	8,9	3						掘立柱建物-1	
ピット-103	2 A	D5j7	16	16	10	黒褐色2.5Y3/1粘質土	円形	8,9	3						掘立柱建物-1	
ピット-104	2 A	D5j7	64	56	20	にぶい黄褐色10YR6/3粘質土	四角形	8,9	3,4			古墳時代	(土)スサ入りの粘土固まり		掘立柱建物-1	
ピット-105	2 A	D5j7	62	62	35	黒褐色10YR3/1粘質土	丸四角形	8,9	3						掘立柱建物-1	
ピット-106	2 A	D5j7	36	33	23	褐色7.5YR4/3粘質土	楕円形	8								
ピット-107	2 A	D5j7	61	58	24	にぶい黄褐色10YR6/4粘質土	四角形	8,9	3						掘立柱建物-1	
ピット-108	2 A	D5j7	59	49	6	不明	四角形	8								
ピット-109	2 A	D5j7	24	21	7	明緑灰色10GY7/1~8.1粘砂質土	楕円形	8							ピットではない?	
ピット-110	2 A	D5j7	65	55	15	灰黄褐色10YR4/2粘質土	五角形	8,9	3						掘立柱建物-1	
ピット-111	2 A	D5j7	23	12	2	不明	楕円形	8								
ピット-112	2 A	D5j7	23	14	3	黒褐色7.5YR3/1~灰褐色7.5YR4/2粘砂質土	長靴形	8,21							塚-1	
ピット-113	2 A	D5j7	43	23	3	灰白色2.5Y7/1~淡黄色2.5Y7/3粘質土	楕円形	8,21							塚-1	
ピット-114	2 A	D5j7	59	36	12	灰褐色7.5YR4/2粘質土	長方形	8								
ピット-115	2 A	D5j7	40	24	11	不明	長方形	8								
ピット-116	2 A	D5j7	32	32	3	不明	円形	8								
ピット-117	2 A	D5j7	45	36	16	にぶい黄褐色10YR4/3粘質土	楕円形	8								
ピット-118	2 A	D5j8	33	26	12	灰褐色7.5YR4/2~褐色7.5YR5/1粘質土	丸四角形	8,21							塚-1	
ピット-119	2 A	D5j8	37	30	24	褐色7.5YR4/1~灰褐色7.5YR4/2粘質土	楕円形	8,21		33-5	43-10	古墳時代	(須)長脚高杯脚部		塚-1	
ピット-120	2 A	D5j8	23	22	8	灰オリブ色7.5Y4/2粘質土	円形	8				古墳時代	(須)高杯脚端部			
ピット-121	2 A	D5j8	26	20	10	オリブ黒色5Y3/1粘質土	楕円形	8								
ピット-122	2 A	D5j8	23	20	9	不明	楕円形	8								
ピット-123	2 A	D5j8	28	15	8	黄灰色2.5Y5/1粘質土	丸三角形	8,21							塚-1	
ピット-124	2 A	D5j8	21	15	12	オリブ黒色5Y3/1粘質土	楕円形	8							ピットではない?	
ピット-125	2 A	D5j8	40	28	20	黄灰色2.5Y4/1粘質土	楕円形	8,21							塚-1	
ピット-126	2 A	D5j8	18	18	15	褐色10YR5/1粘質土	楕円形	8								
ピット-127	2 A	D5j8	58	39	17	灰黄褐色10YR5/2粘質土	楕円形	8							ピットではない?	
ピット-128	2 A	D5j8	50	43	22	灰黄褐色10YR5/2粘質土	ひし形	8							ピットではない?	
ピット-129	2 A	D5j8	30	15	16	褐色10YR4/1粘質土	タマゴ形	8								
ピット-130	2 A	D5j5	26	23	29	黒褐色10YR3/1粘質土	円形	8				古墳時代	(土)破片			
ピット-131	2 A	D5j5	58<	46<	37	黒褐色10YR3/1~3/2粘質土	四角形	8,16	11,14						掘立柱建物-6	
ピット-132	2 A	D5j5	30	28	26	褐色7.5YR4/1~5.1粘砂質土	円形	8								

表8-4 ピット一覧表

(くは未調査区に伸びる可能性を示す) 土師器(土) 須恵器(須)

遺構番号 本報告	トレンチ	地区割	規模(cm)			主要埋土	形状	本文 P.	遺構		出土遺物				備考		
			長径	短径	深さ				図	写真	出土		時代	器種			
											図	写真					
ピット-133	2 A	D5j5	76	66	42	褐灰色10YR4/1~5/1粘質土	正方形	12	8,14	8,9				古墳時代	(土) 杯身、破片	掘立柱建物-4	
ピット-134	2 A	D5j5	60	45	22	黒褐色10YR3/1~褐灰色10YR4/1粘質土	楕円形	12	8,14	8				古墳時代	(土) 破片(須) 杯身破片	掘立柱建物-4	
ピット-135	2 A	D5j5	70	69	34	褐灰色10YR4/1~5/1粘質土	半円形	12	8,14	8							掘立柱建物-4
ピット-136	2 A	D5j5	50	43	27	明黄褐色10YR7/6粘質土	円に近い		8								
ピット-137	2 A	D5j5	55	46	23	褐色10YR4/4粘質土	円形	12	8,15	10				古墳時代	(土) 破片(須) 杯身破片	掘立柱建物-5	
ピット-138	2 A	D5i5	70	61	21	暗褐色10YR3/3粘質土	円に近い	12	8,15	10				古墳時代	(土)(須) 杯身破片	掘立柱建物-5	
ピット-139	2 A	D5j5	64	55	22	灰黄褐色10YR6/2粘質土	タマゴ形		8								ピットではない?
ピット-140	2 A	D5j5	60	47	19	灰黄褐色10YR5/2粘質土	楕円形		8								ピットではない?
ピット-141	2 A	D5j5	25	22	14	黒褐色10YR3/2粘質土	正方形		8								
ピット-142	2 A	D5j5	60	55	33	黒褐色7.5YR3/1~褐灰色7.5YR4/1粘質土	円形	12	8,14	8				古墳時代	(土) 破片(須) 破片	掘立柱建物-4	
ピット-143	2 A	D5j5	80	55	54	不明	隅丸四角形		8								
ピット-144	2 A	D5j5	60	60	35	褐灰色7.5YR4/1~にぶい黄褐色10YR7/4粘質土	正方形	12	8,14	8				古墳時代	(土)(須) 杯身破片	掘立柱建物-4	
ピット-145	2 A	D5j5	60	30	32	灰黄褐色10YR4/2粘質土	長楕円形		8								
ピット-146	2 A	D5j5	35	30	28	灰黄褐色10YR5/2粘質土	円形		8								ピットではない?
ピット-147	2 A	D5j5	65	50	13	褐灰色10YR6/1粘質土	長方形		8								ピットではない?
ピット-148	2 A	D5j5	43	28	16	褐灰色10YR6/1粘質土	長方形		8								ピットではない?
ピット-149	2 A	D5j5	67	50	8	灰黄褐色10YR6/2粘質土	長方形		8								ピットではない?
ピット-150	2 A	D5j6	26	23	10	黒褐色10YR3/1粘質土	円形		8								
ピット-151	2 A	D5j5	80<	50	37	灰黄褐色10YR6/2粘質土	隅丸台形	14	8,20					古墳時代	(須) 破片	掘立柱建物-11	
ピット-152	2 A	D5j5	76	43	14	褐灰色10YR6/1粘質土	長方形		8								ピットではない?
ピット-153	2 A	D5i5	45	45	2	不明	円形		8								
ピット-154	2 A	D5i5	78<	70<	45	灰黄褐色10YR5/2粘質土	五角形	12	8,15	10	33-2	43-2	古墳時代	(土) 甕破片(須) 杯身、甕	掘立柱建物-5		
ピット-155	2 A	D5i5	78	73	60	黒褐色10YR2/2粘質土	隅丸四角形	14	8,20								掘立柱建物-11
ピット-156	2 A	D5i5	74	62	34	黒褐色10YR3/1粘質土	長方形		8,30		33-3	43-3	古墳時代	(須) 杯蓋、杯身			
ピット-157	2 A	D5i5	57	55	46	褐灰色10YR6/1粘質土	円に近い	14	8,20								掘立柱建物-11
ピット-158	2 A	D5j5	20	20	24	褐灰色10YR6/1粘質土	円形		8					古墳時代	(土) 破片(須) 破片		
ピット-159	2 A	D5j6	50	34	38	褐灰色10YR4/1粘質土	長方形	14	8,20								掘立柱建物-11
ピット-160	2 A	D5j6	53	50	11	黄褐色10YR7/8粘質土	正方形		8								ピットではない?
ピット-161	2 A	D5j6	50	50	21	灰黄褐色10YR4/2粘質土	正方形		8								ピットではない?
ピット-162	2 A	D5j6	68	68	46	黒褐色10YR3/2粘質土	正方形		8	21							
ピット-163	2 A	D5j6	56<	50<	40	不明	正方形		8								
ピット-164	2 A	D5j6	45	40	33	黄灰色2.5Y6/1粘質土	正方形	12	8,13	7							掘立柱建物-3
ピット-165	2 A	D5j6	50	50	43	黒褐色10YR3/1粘質土	正方形	13	8,18	7							掘立柱建物-8
ピット-166	2 A	D5j6	50	45	35	黒褐色10YR3/1粘質土	長方形	11	8,11	5							掘立柱建物-2
ピット-167	2 A	D5j6	55	50	42	黒褐色10YR3/1粘質土	円形		8								
ピット-168	2 A	D5j6	55	56	18	不明	正方形		8								
ピット-169	2 A	D5i6	58	55	40	不明	円形		8								
ピット-170	2 A	D5i6	60	50	18	黒褐色10YR3/1粘質土	ひし形		8								ピットではない?
ピット-171	2 A	D5i6	45	40	21	黒褐色10YR2/2粘質土	扇形		8,13	7							掘立柱建物-3
ピット-172	2 A	D5i6	45	42	7	灰オリーブ色5Y5/2粘質土	正方形	12	8					弥生時代	(須) 杯破片	ピットではない?	
ピット-173	2 A	D5i6	65	60	40	黒褐色10YR3/1粘質土	不定形	13	8,18	7							掘立柱建物-8
ピット-174	2 A	D5i6	57	48	20	灰黄褐色10YR5/2粘質土	長方形	12	8,13	7							掘立柱建物-3
ピット-175	2 A	D5i6	47	45	21	黒褐色10YR3/1粘質土	ひし形	13	8,18	7				古墳時代	(土) 杯破片、黒色土器破片	掘立柱建物-8	
ピット-176	2 A	D5j6	53	52	28	黒褐色2.5Y3/1粘質土	正方形	30	8,13	7				古墳時代	(土) 甕破片、黒色土器破片	掘立柱建物-3	
ピット-177	2 A	D5j6,7	50	48	22	黒褐色10YR3/1粘質土	正方形	13	8,18	7				古墳時代	(土) 甕破片(須) 甕破片	掘立柱建物-8	
ピット-178	2 A	D5i7	50	50	18	黒褐色2.5Y3/1粘質土	正方形		8,25					古墳時代	(土) 甕破片	塀-4	
ピット-179	2 A	D5j7	50	48	19	暗灰黄色2.5Y4/2粘質土	楕円形		8,25								塀-4
ピット-180	2 A	D5j7	65<	40<	29	灰褐色7.5YR5/2~6/2粘質土	長方形		8								

表 8-5 ピット一覧表

(くは未調査区に伸びる可能性を示す) 土師器 (土) 須恵器 (須)

遺構番号 本報告	トレンチ	地区割	規模(㎡)			主要埋土	形状	本文P.	遺構		出土遺物				備考
			長径	短径	深さ				図	写真	時代		器種		
											図	写真			
ピット-181	2 A	D57	60	48	20	黒褐色2.5Y3/2粘質土	空豆形		8,25						堺-4
ピット-182	2 A	D57	45<	40	5	不明	正方形		8						
ピット-183	2 A	D57	56	36	3	不明	長方形		8						
ピット-184	2 A	D55	53<	47<	26	にぶい黄褐色10YR5/3粘質土	正方形	12	8,15	10			古墳時代 (須) 杯身		掘立柱建物-5
ピット-185	2 A	D55	60	45	27	黒褐色10YR3/2粘質土	長方形	12	8,15	10			古墳時代 (土) 破片 (須) 甕破片		掘立柱建物-5
ピット-186	2 A	D55	31<	30<	30	黒褐色10YR3/2粘質土	不定形	14	8,19	16					掘立柱建物-10
ピット-187	2 A	D55	65	53	42	にぶい黄褐色10YR7/2粘質土	隅丸四角形	12	8,15	10					掘立柱建物-5
ピット-188	2 A	D55	67<	60<	20	黒褐色10YR2/3粘質土	五角形	12	8,15	10			古墳時代 (土) たこ壺 (須) 杯身		掘立柱建物-5
ピット-189	2 A	D55	50	48<	22	黒褐色10YR3/2粘質土	正方形	14	8,19	16					掘立柱建物-10
ピット-190	2 A	D55	55	50	48	灰黄褐色10YR4/2粘質土	正方形	14	8,19	16					掘立柱建物-10
ピット-191	2 A	D55	55<	50	43	にぶい黄色2.5Y6/4粘質土	ひし形	14	8,19	16					掘立柱建物-10
ピット-192	2 A	D55	52<	50<	30	黄灰色2.5Y4/1粘質土	楕円形	14	8,19	16					掘立柱建物-10
ピット-193	2 A	D55	58	57	36	灰黄褐色10YR4/2粘質土	半円形	14	8,19	16					掘立柱建物-10
ピット-194	2 A	D55	55<	50	38	暗灰黄色2.5Y5/2粘質土	円に近い	14	8,19	16					掘立柱建物-10
ピット-195	2 A	D55	52	45	21	褐灰色2.5Y5/1粘質土	正方形	8,24	20						堺-3
ピット-196	2 A	D55,6	27	22	19	黒褐色10YR3/1粘質土	円形	8							
ピット-197	2 A	D55,6	55	50	7	不明	正方形	8							
ピット-198	2 A	D56	40	40	35	黒褐色2.5Y3/1粘質土	正方形	8,24	20						堺-3
ピット-199	2 A	D56	80	70	58	黒褐色10YR3/1粘質土	隅丸台形	28	8,30		33-8	43-6	古墳時代 (土) たこ壺破片 (須) 壺、大甕破片 使用所?		
ピット-200	2 A	D56	32	27	16	黒褐色10YR3/1粘質土	楕円形	8					弥生時代 (須) 破片		
ピット-201	2 A	D56	60	45	30	灰黄褐色10YR4/2粘質土	ひし形	8					古墳時代 (土) 破片		
ピット-202	2 A	D56	36	30	40	黒褐色10YR3/1粘質土	円形	8							
ピット-203	2 A	D56	24	20	33	黒褐色10YR3/1粘質土	円形	8							
ピット-204	2 A	D56	75<	63	3	不明	円形	8							
ピット-205	2 A	D56	15	11	7	不明	円形	8							
ピット-206	2 A	D56	43	30	11	黒褐色2.5Y3/1粘質土	楕円形	8							
ピット-207	2 A	D56	85	60	1	不明	楕円形	8							
ピット-208	2 A	D57	55	50	26	灰黄褐色10YR4/2粘質土	円形	8							
ピット-209	2 A	D57	65<	47	25	黒褐色10YR3/2粘質土	長方形	8,25							堺-4
ピット-210	2 A	D57	63<	45	14	にぶい黄褐色10YR6/3粘質土	平行四辺形	8							
ピット-211	2 A	D57	58<	51<	21	暗灰黄色2.5Y5/2砂質土	楕円形	8							
ピット-212	2 A	D57	90<	53	20	灰黄褐色10YR5/2粘質土	長方形	8							
ピット-213	2 A	D56	58	53	27	黒褐色10YR3/1粘質土	楕円形	11	8,11	5					掘立柱建物-2
ピット-214	1 A	D54	58	43	45	黒褐色10YR3/1粘砂質土	長方形	13	8,16	11,14					掘立柱建物-6
ピット-215	1 A	D54	65<	52	30	黒褐色10YR3/1~3/2粘砂質土	半円形	8		13			古墳時代 (土) 甕口縁 (須) 甕		
ピット-216	1 A	E5a3	55	35	25	不明	タマゴ形	7							
ピット-217	1 A	E5a3,4	55<	50	30	褐灰色10YR6/1砂質土	正方形	13	8,17	14,15					掘立柱建物-7
ピット-218	1 A	D53	37	35	15	不明	正方形	8							
ピット-219	1 A	D53	65	50	10	不明	不定形	8							
ピット-220	1 A	D53	35	26	4	黄灰色2.5Y5/1~黒色10YR2/1粘砂質土	楕円形	8							
ピット-221	1 A	D54	30	20	15	褐灰色10YR5/1粘砂質土	正方形	8							
ピット-222	1 A	D54	45<	30	5	不明	不定形	8							
ピット-223	1 A	D54	54	43	3	不明	楕円形	8					古墳時代 (土) 甕小破片		
ピット-224	1 A	D54	38	35	30	黒色10YR2/1粘質土	楕円形	8					古墳時代 (土) 破片		
ピット-225	2 A	D56	70	50	24	黒褐色10YR3/1粘質土	長方形	8					古墳時代 (土) 破片 (須) 大甕破片		
ピット-226	2 A	D55	13	10	7	不明	円形	8							
ピット-227	2 A	D55	17	17	10	黒褐色10YR3/1~褐灰色10YR4/1粘質土	円形	8,14	8						掘立柱建物-4
ピット-228	2 A	D55	53	35	8	不明	隅丸四角形	8							
ピット-229	1 A	D54	55	40	30	褐灰色10YR4/1粘砂質土	楕円形	13	8,16,30	11,14	33-4	43-5	古墳時代 (土) 甕破片 (須) 杯身		掘立柱建物-6

表 8-6 ピット一覧表

(くは未調査区に伸びる可能性を示す) 土師器(土) 須恵器(須)

遺跡番号 本報告	トレンチ	地区割	規模(m)			主要埋土	形状	本文P.	遺構		出土		遺物	備考		
			長径	短径	深さ				図	写真	図	写真			時代	器種
ピット-230	1 A	D5j4	25<	25	11	灰黄褐色10YR5/2~6/2粘砂質土	不定形	8								
ピット-231	1 A	D5j4	24	21	8	褐灰色10YR4/1粘質土	円形	8								
ピット-232	1 A	D5j4	25	20	7	褐灰色10YR4/1粘質土	円形	8								
ピット-233	1 A	D5j4	70	65	22	黒褐色10YR3/1粘砂質土	正方形	13	8,16	11,14			掘立柱建物-6			
ピット-234	2 A	D5j4	50	40	14	褐灰色10YR5/1粘質土	楕円形	13	8,16	11,14		古墳時代	(須) 燧石片	掘立柱建物-6		
ピット-235	2 A	D5j5	16	13	8	褐灰色7.5YR4/1粘質土	円形	8								
ピット-236	2 A	D5j5	43<	43<	40	不明	正方形	13	8,15	10		古墳飛鳥	(土) 杯身、底底面破片 (須) 杯破片、燧石片	掘立柱建物-5		
ピット-237	2 A	D5j5	50<	47	15	褐灰色7.5YR4/1~5/1粘質土	楕円形	8								
ピット-238	2 A	D5i5	26	23	20	不明	楕円形	13	8,15	10		古墳時代	(土) たご意破片(須) 杯蓋	掘立柱建物-5		
ピット-239	2 A	D5j6	73	70	34	黒褐色10YR3/1粘質土	不定形	11	8,11	5				掘立柱建物-2		
ピット-240	2 A	D5j6	53<	47	30	暗褐色10YR3/4粘質土	正方形	12	8,13	7				掘立柱建物-3		
ピット-241	2 A	D5j6	54	50	37	黒褐色10YR3/1粘質土	正方形	13	8,18	7				掘立柱建物-8		
ピット-242	2 A	D5i6	45	40	42	黒褐色2.5Y3/1粘質土	円に近い	8,24	20					塚-3		
ピット-243	2 A	D5i6	43<	30	18	灰黄色2.5Y7/2粘質土	楕円形	8								
ピット-244	2 A	D5i5	57	52	40	黒褐色7.5Y3/1粘質土	正方形	14	8,19	16				掘立柱建物-10		
ピット-245	2 A	D5i6	50	26	32	不明	長方形	8								
ピット-246	2 A	D5i7	30	25	13	褐灰色10YR4/1粘質土	円形	8								
ピット-247	2 A	D5j6	20	20	9	不明	楕円形	8								
ピット-248	2 A	D5j5	38	38	10	褐灰色10YR4/1粘質土	正三角形	8						ピットではない?		
ピット-249	2 A	D5j5	50	40	11	褐灰色10YR4/1粘質土	楕円形	8				古墳時代	(土) 破片	ピットではない?		
ピット-250	2 A	D5i5	40	40	23	黒褐色10YR3/1粘質土	円形	14	8,19	16				掘立柱建物-10		
ピット-251	2 A	D5j4	51	27<	16	黒褐色10YR3/1~褐灰色10YR4/1粘質土	円形	8								
ピット-252	2 A	D5j7	38	30	20	黒褐色10YR3/1粘質土	カギ穴形	8								
ピット-253	1 A	D5j4	28	23	10	褐灰色10YR4/1粘質土	楕円形	8								
ピット-254														抹消		
ピット-255	2 A	D5i5	50	46	14	褐灰色10YR4/1粘質土	円形	14	8,19	16		古墳時代	(土) 破片	掘立柱建物-10		
ピット-256														抹消		
ピット-257														抹消		
ピット-258	3 A	D5j8	34<	30	22	黒褐色10YR3/1粘質土	カギ穴形	29	8,31	37				掘立柱建物-13		
ピット-259	3 A	D5j8	20	20	12	褐灰色10YR4/1粘質土	円形	8								
ピット-260	3 A	D5j8	30	25	19	不明	円形	29	8,31	37				掘立柱建物-13		
ピット-261	3 A	D5j8	29	19	19	不明	半円形	30	8			飛鳥奈良	(土) 破片			
ピット-262	3 A	D5j8	21<	19<	20	不明	半円形	29	8,31	37	33-9	43-9	古墳時代	(土) 小皿、黒色土器	掘立柱建物-13	
ピット-263	3 A	D5j8	33	19	4	不明	空豆形	8								
ピット-264	3 A	D5j8	24	18	9	不明	楕円形	8								
ピット-265														抹消		
ピット-266	3 A	D5j9	43	32	36	不明	楕円形	8				飛鳥奈良	(土) 杯破片	ピット-267と合体		
ピット-267	3 A	D5j9	43	32	36	不明	楕円形	8						ピット-266と合体		
ピット-268	3 A	D5j9	26	20	13	不明	楕円形	8								
ピット-269	3 A	D5j9	21	20	11	不明	円形	8								
ピット-270	3 A	D5j8	30	19	4	不明	隅丸四角形	8						ピット-271と合体		
ピット-271	3 A	D5j8	30	19	4	不明	隅丸四角形	8						ピット-270と合体		
ピット-272	3 A	D5j8	26	23	19	不明	円形	8								
ピット-273	3 A	D5j8	32	28	25	不明	楕円形	29	8,31	37				掘立柱建物-13		
ピット-274	3 A	D5j8	30	27	11	不明	円形	8								
ピット-275	3 A	D5j8	31	27	3	不明	円形	8,31	37							
ピット-276	3 A	D5j8,9	22	21	15	不明	円形	29	8					掘立柱建物-13		
ピット-277	3 A	D5j9	20	12	4	不明	三日月形	8								
ピット-278	3 A	D5j9	23	21	12	不明	円形	8								

表 8-7 ピット一覧表

(くは未調査区に伸びる可能性を示す) 土器器 (土) 須恵器 (須)

遺構番号 本報告	トレンチ	地区割	規模 (cm)			主要埋土	形状	本文 P.	遺構		出土遺物		備考
			長径	短径	深さ				図	写真	時代	器種	
ピット-279	3 A	D5j8	29	22	28	不明	円形	30	8		古墳時代	(土) 杯身	
ピット-280	3 A	D5j8	24	24	11	不明	円形		8				
ピット-281	3 A	D5j8	40	36	18	不明	円形		8				
ピット-282	3 A	D5j8	40	33	7	不明	楕円形		8				
ピット-283	3 A	D5j8	53	40	4	不明	楕円形		8				
ピット-284	3 A	D5j8	35	25	14	不明	円形		8				
ピット-285	3 A	D5j8	35	30	11	不明	円形		8				
ピット-286	3 A	D5j8	25	22	13	不明	円形		8				
ピット-287	3 A	D5j8	55	20	19	不明	L形		8				
ピット-288	3 A	D5i8	33	29	2	不明	円形		8				
ピット-289	3 A	D5i8	48	35	20	不明	円形		8				
ピット-290	3 A	D5i8	54	50	8	灰黄色2.5Y6.2砂質土	正方形	14	8,22	17,18			掘立柱建物-12
ピット-291	3 A	D5i8	47	33	4	浅黄色2.5Y7.3砂質土	楕円形	14	8,22	17,18			掘立柱建物-12
ピット-292	3 A	D5i8	76	40	5	灰黄色2.5Y7.2砂質土	楕円形	14	8,22	17,18			掘立柱建物-12
ピット-293	3 A	D5i8	75	53	4	暗灰黄色2.5Y4.2砂質土	正方形	14	8,22	17,18			掘立柱建物-12
ピット-294	3 A	D5i8	60	55	9	黄灰色2.5Y4.1砂質土	円形	14	8,22	17,18			掘立柱建物-12
ピット-295	3 A	D5i8	55	55	1	暗灰黄色2.5Y4.2砂質土	円形	14	8,22	17,18			掘立柱建物-12
ピット-296	3 A	D5i8	50	36	4	灰黄色2.5Y6.2砂質土	タマゴ形	14	8,22	17,18			掘立柱建物-12ピット287と合体
ピット-297	3 A	D5i8	50	36	4	浅黄色2.5Y7.3粘質土	円形	14	8,22	17,18			掘立柱建物-12ピット296と合体
ピット-298	3 A	D5i9	65	40	19	灰白色2.5Y7.1粘質土	楕円形		8				
ピット-299	3 A	D5j8	37	27	12	不明	楕円形		8				
ピット-300	3 A	D5j8	30	28	14	不明	円形		8				
ピット-301	3 A	D5i8	20	20	9	不明	円形	29	8,31	37			掘立柱建物-13
ピット-302	3 A	D5j8	32	25	12	不明	楕円形	29	8,31	37	古墳飛鳥奈良	(土) 破片、黑色土器	掘立柱建物-13
ピット-303	3 A	D5j8	15	12	16	不明	円形		8				
ピット-304	3 A	D5j8	33	21	24	不明	楕円形	30	8				
ピット-305	3 A	D5j8	28	24	11	不明	円形		8		飛鳥奈良	(土) 破片、黑色土器輪	
ピット-306	3 A	D5j8	20	20	16	不明	楕円形		8				
ピット-307	3 A	D5j8	28	25	20	不明	円形		8				
ピット-308	3 A	D5j8	25	21	12	不明	三月形	29	8,31	37			掘立柱建物-13
ピット-309	3 A	D5j8	23	23	15	不明	円形		8				
ピット-310	3 A	D5j8	29	20	9	不明	円形		8				
ピット-311	3 A	D5j8	23	20	11	不明	円形		8				
ピット-312	3 A	D5j8	40	40	20	不明	三月形		8				
ピット-313	3 A	D5j8	43	19	2	不明	円形		8				
ピット-314	3 A	D5i8	60	43	4	黄灰色2.5Y4.1粘質土	楕円形	29	8,22	17,18			掘立柱建物-12
ピット-315	3 A	D5i8	55	55	6	暗灰黄色2.5Y5.2砂質土	タマゴ形	29	8,22	17,18			掘立柱建物-12
ピット-316	3 A	D5i8	65	50	6	黒褐色2.5Y3.2砂質土	正方形	29	8,22	17,18	古墳飛鳥奈良	(土) 破片、杯身、黑色土器	掘立柱建物-12
ピット-317	3 A	D5i8	54	47	7	黒褐色2.5Y3.1粘質土	楕円形	29	8,22	17,18			掘立柱建物-12
ピット-318	3 A	D5i8	50	40	7	浅黄色5Y7.3粘質土	正方形	29	8,22	17,18			掘立柱建物-12
ピット-319	3 A	D5i8	53<	15<	—	灰黄色2.5Y6.2砂質土	半円形	29	8,22	17,18			掘立柱建物-12
ピット-320	3 A	D5j8	10	9	2	不明	円形		8				

表 9 - 1 出土遺物一覧表

図版 番号	器 種	本文 F.	遺 物 字 号	遺 構・層 位	トレ ンチ	地区割	径 (cm)	器高 (cm) ()残高	特 徴	備 考
31-1	須恵器高坏蓋	35	42-3	溝-27 第4遺構面	3A	D510	14.6	5.0		
31-2	須恵器坏蓋	35		溝-29 下層 第4遺構面	3A	D510	14.0	4.0	天井部内面タタキ目	
31-3	須恵器坏蓋	35		溝-8 第4遺構面	1A	D5j4	12.8	(3.0)		
31-4	須恵器坏蓋	35		溝-27 第4遺構面	3A	D5i10	13.4	(4.2)	天井部外面ヘラ記号	つまみ部欠損
31-5	須恵器坏蓋	35		溝-25 南側 第4遺構面	3A	D5j8	13.8	(3.3)		
31-6	須恵器坏蓋	35	42-1	溝-27 第4遺構面	3A	D5j10	9.4	3.1		
31-7	須恵器坏蓋	35	42-2	溝-25 第4遺構面	3A	D5j8	11.3	4.7		
31-8	須恵器坏身	35	42-6	溝-24 西側 第4遺構面	3A	D5j8	12.6	(4.2)		
31-9	須恵器坏身	35		溝-25 第4遺構面	3A	D5j8	14.3	(3.6)		
31-10	須恵器坏身	35	42-4	溝-24 西側 第4遺構面	3A	D5j8	12.6	(3.6)		
31-11	須恵器坏身	35		溝-5 第4遺構面	1A	D5j4	11.5	(3.7)		
31-12	須恵器坏身	35	42-5	溝-20 北側 第4遺構面	2A	D5i7	12.0	(3.8)		
31-13	須恵器坏身	35		溝-27 第4遺構面	3A	D5j10	10.2	(4.1)	底部外面ヘラ記号	
31-14	須恵器高台付坏身	35		溝-4 第4遺構面	1A	D5j3	11.0	(2.0)		
31-15	須恵器高坏	35	42-7	溝-27 下層 第4遺構面	3A	D5j10	14.2	(4.0)		
31-16	須恵器高坏	35	42-8	溝-8 第4遺構面	1A	D5j4	17.1	(8.8)		ビット-32から出土の破片と接合
31-17	須恵器高坏	35		溝-20 北側 第4遺構面	2A	D5i7	18.7	(10.0)	3方透かし	
31-18	須恵器高坏	35		溝-29 上層 第4遺構面	3A	D5i10	17.2	(4.9)		
31-19	須恵器高坏	35		溝-25 南側 第4遺構面	3A	D5j8	—	(8.2)		
31-20	須恵器短脚高坏	35		溝-4 第4遺構面	1A	D5j3	7.6	(3.4)		
31-21	須恵器甕	35		溝-31 第4遺構面	3A	D5i10	18.6	(5.1)		
31-22	須恵器甕	35		溝-24 南側 第4遺構面	3A	D5j8	19.8	(7.8)	頸部に一条の沈線が施されている	
31-23	須恵器甕	35		溝-29 上層 第4遺構面	3A	D5i10	21.4	(3.1)		
31-24	須恵器甕	35		溝-29 上層 第4遺構面	3A	D5i10	18.0	(2.0)		
31-25	須恵器甕	35		溝-27 第4遺構面	3A	D5j10	13.8	(2.8)	一部ヘラ書き文の上にカキ目を施す	
31-26	須恵器甕	35		溝-30 上層 第4遺構面	3A	D5i10	15.4	(4.8)		
31-27	須恵器鉢	35	42-9	溝-27 第4遺構面	3A	D5j10	—	(5.9)		
31-28	土師器たこ壺	35	42-10	溝-24 西側 第4遺構面	3A	D5j8	4.4	(8.7)		
31-29	土師器高坏	35		溝-15 第4遺構面	2A	D5i5	16.8	(8.3)		
32-1	須恵器坏蓋	36		落込-9 第4遺構面	3A	D5i9,10	15.8	(4.2)		
32-2	須恵器坏身	36		落込-6 第4遺構面	1A	D5j3	11.7	(2.7)		
32-3	須恵器坏身	36		落込-7A 第4遺構面	1A	D5j3	—	(2.2)		
32-4	須恵器高台付坏身	36		落込-7A 第4遺構面	1A	D5j3	11.5	(2.9)		
32-5	須恵器高坏	36		落込-6 第4遺構面	1A	D5j3	12.3	(3.8)		
32-6	須恵器短脚高坏	36		落込-6 第4遺構面	1A	D5j3	10.0	(3.5)		
32-7	須恵器高坏	36		落込-7A 第4遺構面	1A	D5j3	17.6	(3.5)		
32-8	須恵器鉢	36		落込-6 第4遺構面	1A	D5j3	23.4	(5.0)		
32-9	須恵器甕	36		落込-6 第4遺構面	1A	D5j3	45.0	(9.7)		
32-10	土師器甕	36		落込-1 第4遺構面	1A	E4a9	—	(6.2)	二重口縁	表面剝離の為調整不明
33-1	須恵器坏蓋	38	43-1	ビット-60 第4遺構面	2A	D5j5	14.0	(3.3)		
33-2	須恵器坏身	38	43-2	ビット-154 第4遺構面	2A	D5i5	12.8	(2.5)		掘立柱建物-5 所々表面が剝離 生焼け
33-3	須恵器坏身	38	43-3	ビット-156 第4遺構面	2A	D5i5	13.0	(3.8)		
33-4	須恵器坏身	38	43-5	ビット-229 第4遺構面	1A	D5j4	13.0	(3.5)		掘立柱建物-6 歪んでいる
33-5	須恵器高坏	38	43-10	ビット-119 第4遺構面	2A	D5j8	—	(13.5)	2段2方透かし	堺-1
33-6	須恵器高坏	38	43-7	ビット-32 第4遺構面	1A	D5j4	—	(5.5)	2段3方透かし	
33-7	須恵器高坏	38	43-4	ビット-32 第4遺構面	1A	D5j4	11.5	(2.1)		
33-8	須恵器甕	38	43-6	ビット-199 第4遺構面	2A	D5i6	22.2	(5.2)		
33-9	土師器小皿	38	43-9	ビット-262 第4遺構面	3A	D5j8	9.3	(2.2)		掘立柱建物-13 所々表面が剝離
33-10	土師器高坏	38	43-8	ビット-32 第4遺構面	1A	D5j4	—	(5.3)	ヘラナデ調整で角柱(11面)に仕上げている	